

信篤エリアに求められる

原木中山駅前公共施設再編整備基本構想

令和 6 年 5 月

市 川 市

目 次

1. 背景と目的	1
2. 対象地等の設定	2
(1) 信篤エリア	2
(2) 原木中山駅前公共施設再編整備事業の対象地	3
3. 上位計画の整理	4
4. 原木中山駅前公共施設の現況	6
(1) 信篤図書館	6
(2) 信篤幼稚園	7
(3) 信篤公民館	8
(4) 信篤こども館	8
(5) 地域ケアシステム信篤・二俣	9
(6) 信篤市民体育館	10
(7) 信篤窓口連絡所	11
5. 市民アンケート調査の実施	12
6. 現状分析	13
(1) 公共施設（駅前公共施設）	13
(2) ひと	14
(3) まち	15
(4) 現状分析まとめ	16
7. 基本方針の設定	17
(1) 公共施設・まちづくりのあり方	17
(2) 「信篤エリアの将来像」	18
(3) 将来像を実現する「4つの基本方針」	20
①コンパクトな生活圏で多世代が住み続けられるエリアづくり	20
②誰もが健康で元気に自分らしく生活できるエリアづくり	20
③まち・ひとの多様な地域力を生かせるコミュニティを育むエリアづくり	21
④再生可能エネルギーを活用した強靱で持続可能なエリアづくり	21
(4) 土地利用の考え方	22
(5) 駅前公共施設の再編方針	22
(6) 駅前公共施設の組み合わせのメリット（例示）	23
8. 「駅前公共施設」に導入する施設の機能・規模の検討	25
(1) 図書館施設機能	25
(2) 集会施設機能（こども館の機能、地域ケアシステムの機能を含む）	26

（３）体育館施設機能.....	27
（４）市民窓口機能.....	28
（５）民間機能	29
（６）導入機能・想定規模のまとめ.....	30
９．事業手法	31
10．想定スケジュール	32

別冊資料

市民アンケート調査 調査票

市民アンケート調査 結果

以下、特記ない限りは令和６年（2024年）３月末日時点の情報を示す。

1. 背景と目的

東京メトロ東西線 原木中山駅から徒歩2分という好立地に所在する信篤地域の公共施設には、図書館や幼稚園、公民館や市民体育館、さらに市民課窓口連絡所が設置されています。

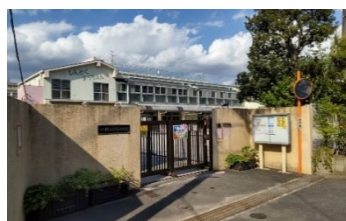
いずれの施設も築30年を超えており、中でも信篤図書館は昭和43年の建設から56年が経過し老朽化が進んでいます。令和5年3月に改訂した「公共施設個別計画」では、令和9年度から12年度の間信篤図書館の建替えに着手するとしているほか、同期間内に改修に着手するとしている信篤市民体育館を含め、各施設の整備にあたっては、近接する他の施設との再編並びに複合化を検討するものとしています。

本基本構想は、このような状況を踏まえ、各種関係計画との整合を図り、市民アンケート調査の結果などに基づき、現状分析を行い、信篤エリアの活性化に資する機能及び施設のあり方や、各公共機能の概算規模、整備スケジュールを示すものです。

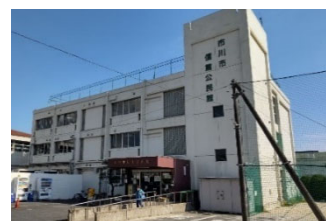
原木中山駅前の公共施設及び築年数



信篤図書館（築56年）



信篤幼稚園（築45年）



信篤公民館（築42年）
※公民館内に「信篤こども館」及び「地域ケアシステム信篤・二俣」を併設。



信篤市民体育館（築39年）



信篤市民体育館
トレーニング棟
（築31年）



信篤窓口連絡所（築34年）

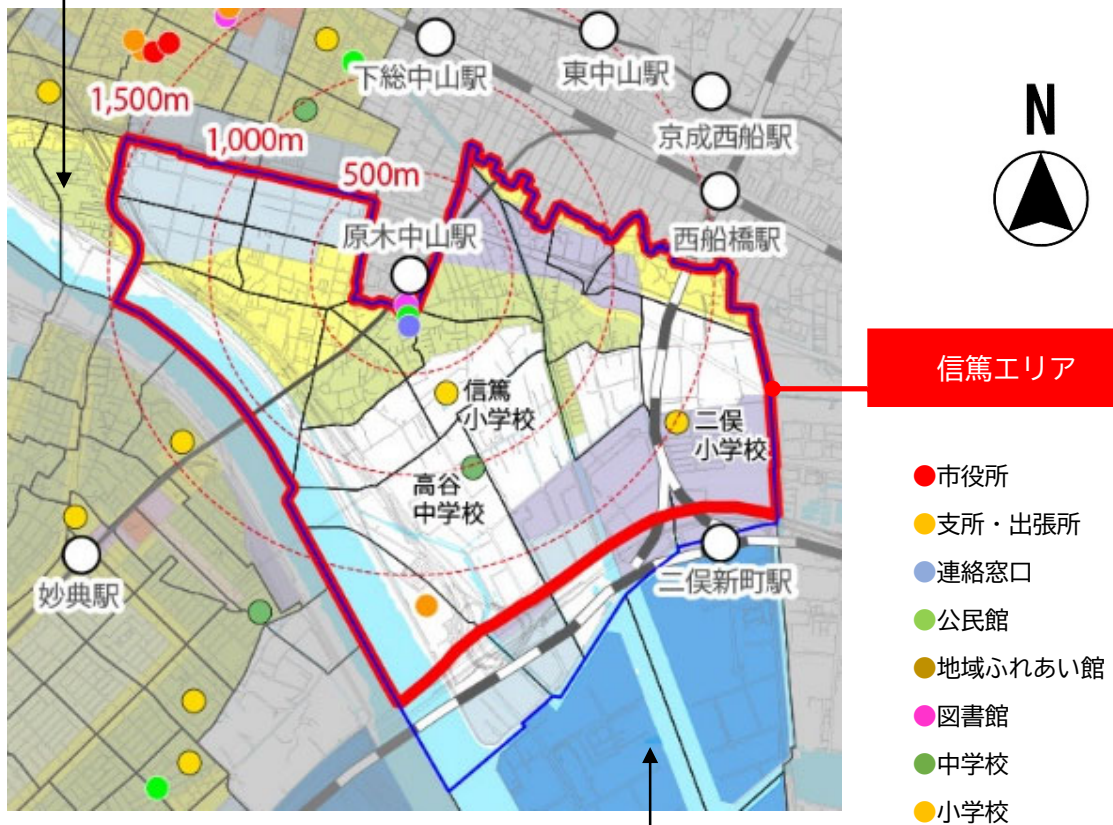
2. 対象地等の設定

(1) 信篤エリア

原木中山駅から概ね1.5kmの範囲で、湾岸の工業地域（湾岸道路以南）及び稲荷木エリアを除いたエリア（下図の赤い線で囲んだ範囲）を対象とします。

稲荷木：信篤エリアには含めません。

本八幡駅（都市拠点）周辺の住居系用途地域の市街地としてまちづくり・土地利用を展開することが想定されるエリア

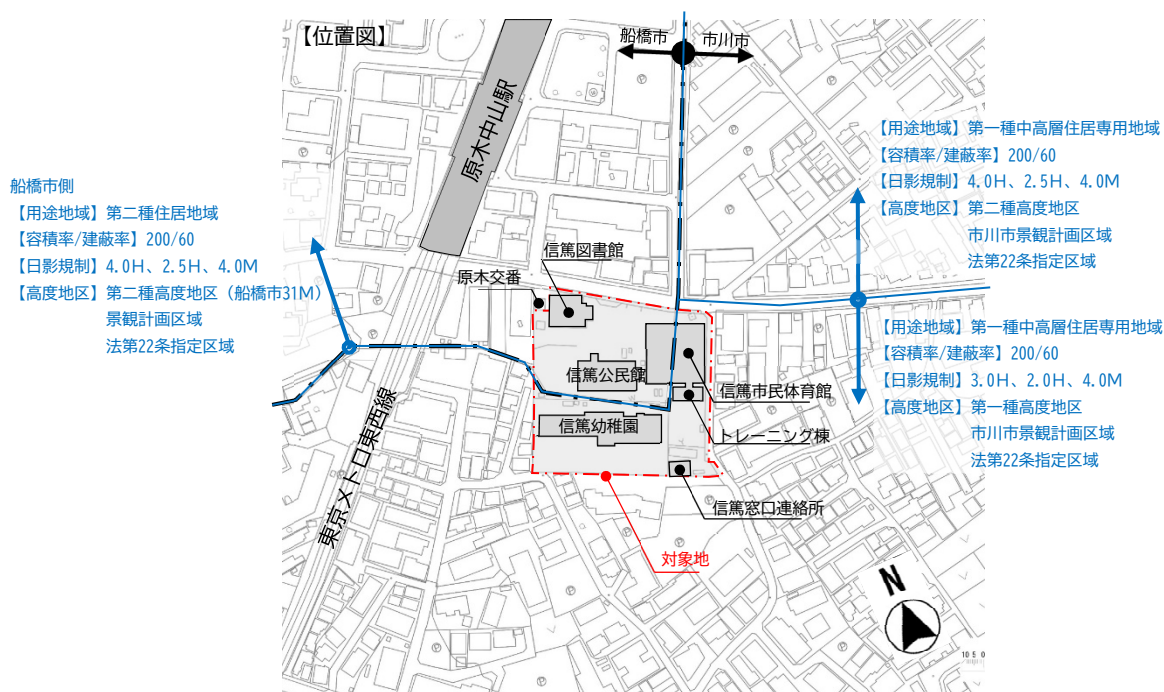


臨海部（東関東自動車道より南側）：信篤エリアには含めません。

公共施設再編を起点としたまちづくりとは異なり、工業・流通業務に特化したまちづくり・土地利用を展開することが想定されるエリア

（２）原木中山駅前公共施設再編整備事業の対象地

原木中山駅前に位置する既存の公共施設（信篤図書館、信篤幼稚園、信篤公民館、信篤市民体育館、信篤窓口連絡所など）の敷地8,828.36㎡とします。



【対象地の概要】

所在地(地番)	市川市高谷232番1 外21筆		
敷地面積	8,828.36㎡（市川市側：4,656.36㎡ 船橋市側：4,172㎡）※登記情報		
所有者	市川市		
区域区分	市街化区域内	用途地域他	図示（青線、青文字参照）
備考	・対象地が市川市と船橋市の境界をまたいでいる。 ・原木中山駅から徒歩2分程度でバス停も至近であり、公共交通機関の利便性が高い。 ・現状は、信篤図書館、信篤幼稚園、信篤公民館、信篤市民体育館、信篤窓口連絡所などの敷地として利用されている。 ・敷地内には共用の駐車スペースが20台分ある。		

3. 上位計画の整理

原木中山駅前公共施設再編整備事業に関連する主な計画は以下のとおりです。

計画名称	関連する主な内容
市 川 市 総 合 計 画 I & I プ ラ ン 2 1	・ 長期的な展望に基づき、市政運営を総合的・計画的に進めるための根幹となる計画であり、市民と行政の共通の将来目標となるもの、目指すべき将来都市像として「ともに築く 自然とやさしさがあふれる 文化のまち いちかわ」を掲げています。 ・ 将来都市像等を具現化するための基本的な施策を定めた第三次基本計画では、取り組みの中に「公共施設等総合管理計画の推進」「公共施設における脱炭素の推進」を掲げています。
市 川 市 都 市 計 画 マ ス タ ー プ ラ ン	・ 市川市総合計画に示された将来都市像を具体化していくための都市づくり部門の総合的な指針を示したものです。 ・ 原木中山駅周辺は「地域拠点：主に地域住民の日常生活に必要な機能が集積し、地域における生活を支える場所」として位置づけられています。 ・ 原木中山駅周辺南側の一帯は「地域づくりの方針」の中で「質の高い都市的サービスを享受できる一般住宅地の形成」、「密集市街地の解消と住環境の改善」を行うとされています。 ・ 「災害に強い安全・安心な地域づくり」として防災機能の充実が、また「安心して暮らせる環境づくり」としてバリアフリー、ユニバーサルデザインなどを採り入れた「人にやさしい公共施設」がうたわれています。
市川市地域防災計画 (震災編)(風水害編)(大規模事故編) 信篤・二俣地区	・ 本市の地域及び市民の生命・財産を守るため、「被害を軽減するための予防計画」、「災害発生時の迅速かつ的確な行動を示した応急対策計画」等を定めています。 ・ 本事業との関連では、避難場所及び津波避難場所に、信篤公民館と信篤市民体育館が指定されています。また信篤公民館は市の災害班（５班）の拠点となっています。

市川市公共施設等 総 合 管 理 計 画 ・ 公共施設個別計画	公共施設等総合管理計画は、公共施設の維持管理のあり方や管理方法、再編・整備の方針等を定めています。公共施設個別計画は、各施設の具体的な実行計画を示すもので、原木中山駅前の公共施設に関する記述は以下のとおりです。 <table border="1" data-bbox="531 499 1348 1550"> <tr> <td data-bbox="531 499 738 663">信 篤 図 書 館</td><td data-bbox="738 499 1348 663">第3期【令和9年～令和12年】建替え着手予定 「近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。</td></tr> <tr> <td data-bbox="531 663 738 828">信 篤 幼 稚 園</td><td data-bbox="738 663 1348 828">「今後の就園状況や地域の実情等に配慮しながら廃園や、近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。</td></tr> <tr> <td data-bbox="531 828 738 947">信 篤 公 民 館</td><td data-bbox="738 828 1348 947">「近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。</td></tr> <tr> <td data-bbox="531 947 738 1052">信篤こども館</td><td data-bbox="738 947 1348 1052">信篤公民館の整備に併せる。</td></tr> <tr> <td data-bbox="531 1052 738 1218">地 域 ケ ア シ ス テ ム 信 篤 ・ 二 俣</td><td data-bbox="738 1052 1348 1218">信篤公民館の整備に併せる。</td></tr> <tr> <td data-bbox="531 1218 738 1384">信 篤 市 民 体 育 館</td><td data-bbox="738 1218 1348 1384">第3期【令和9年～令和12年】改修の着手予定 「近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。</td></tr> <tr> <td data-bbox="531 1384 738 1550">信 篤 窓 口 連 絡 所</td><td data-bbox="738 1384 1348 1550">「施設の安全性に配慮しつつ継続利用を図るとともに、近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。</td></tr> </table>	信 篤 図 書 館	第3期【令和9年～令和12年】建替え着手予定 「近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。	信 篤 幼 稚 園	「今後の就園状況や地域の実情等に配慮しながら廃園や、近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。	信 篤 公 民 館	「近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。	信篤こども館	信篤公民館の整備に併せる。	地 域 ケ ア シ ス テ ム 信 篤 ・ 二 俣	信篤公民館の整備に併せる。	信 篤 市 民 体 育 館	第3期【令和9年～令和12年】改修の着手予定 「近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。	信 篤 窓 口 連 絡 所	「施設の安全性に配慮しつつ継続利用を図るとともに、近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。
信 篤 図 書 館	第3期【令和9年～令和12年】建替え着手予定 「近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。														
信 篤 幼 稚 園	「今後の就園状況や地域の実情等に配慮しながら廃園や、近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。														
信 篤 公 民 館	「近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。														
信篤こども館	信篤公民館の整備に併せる。														
地 域 ケ ア シ ス テ ム 信 篤 ・ 二 俣	信篤公民館の整備に併せる。														
信 篤 市 民 体 育 館	第3期【令和9年～令和12年】改修の着手予定 「近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。														
信 篤 窓 口 連 絡 所	「施設の安全性に配慮しつつ継続利用を図るとともに、近接する他の公共施設との再編・複合化等の検討」を進める。														

4. 原木中山駅前公共施設の現況

(1) 信篤図書館

構造	鉄筋コンクリート造	延 べ 面 積	912.60㎡	
階 数	地上3階建て	築 年 数	築56年	
備 考	昭和43年に建設され、昭和56年に開館 (小学校跡地を利用して開館)			

《基本情報》

- ・ 1階はこどもの本と一般書、2階は一般書（文学）と事務室、3階はおはなし室と書庫で構成されている。
- ・ 蔵書数49,938冊、新聞4紙、雑誌30種、座席数36席。

《施設の利用動向》

- ・ 有効登録者数2,485人のうち、実利用者数は約55%の1,375人で、年間の延べ利用者数（貸出者数）は、平成27年度の33,164人から徐々に減少しており、令和元年度は約80%の26,522人となった。その後は横ばいに推移し、令和4年度は26,687人。
- ・ 利用者は、近隣にお住まいの方が主であり、平日や休日の日中、月1回以上利用するひとが多いと考えられる。
- ・ 施設に対する利用者の評価にバラつきがあるが、不満との声は少数にとどまっている。
- ・ 利用者は、満足度を評価する視点として、アクセスの利便性や機能・設備、予約のしやすさなどを挙げている。

《施設の管理・運営の実態》

- ・ 蔵書回転率（貸出冊数÷蔵書冊数）は1.68回であり、市内図書館の平均1.55回を上回っている。
- ・ 従前にあった小学校の建物を転用した古い施設であるため、耐震性、快適性、環境性の評価も低い。
- ・ 利用者からも、老朽化による快適性・安全性の低下等が懸念されており、設備の充実やバリアフリー化など、利用を促すのに工夫すべき点として指摘されている。
- ・ もともと図書館として建てられたものではないことに加え、荷重負担を考慮して3階を有効に活用できない状況にある。
- ・ 同一敷地内の公民館・市民体育館との段階的な改修・更新や複合化等により、「豊かな時間を過ごせる『第三の居場所（サードプレイス）』」「多目的に、柔軟に利用できるスペース」など、従来の図書館利用を拡大した空間・機能が求められている。

(2) 信篤幼稚園

構 造	鉄筋コンクリート造	延 べ 面 積	1,217.00㎡	
階 数	地上2階建て	築 年 数	築45年	

《基本情報》

- ・ 改修の実績がない。
- ・ 原木中山駅に近接する駅前公共施設のひとつであり、敷地は市川市域側にある。

《施設の利用動向》

- ・ 平成28年5月時点では年少（4歳）、年長（5歳）あわせて4クラス。定員160名のうち70.6%の113名が在園していたが、令和5年5月現在では2クラスで、定員140名の26.4%にあたる37名の在園となっている。

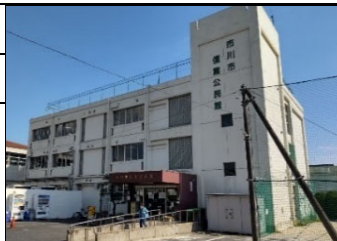
《施設の管理・運営の実態》

- ・ 建物は、建築年数の経過から、耐震性、快適性、環境性の評価が低くなっている。
- ・ 在園率の低下が続いており、現在は定員の1/4程度になっている。このため、市立幼稚園の今後のあり方に関する政策的な動向を踏まえた対応が検討されている。
- ・ 近接する公民館、図書館、体育館の敷地が船橋市との境界を越えているのに対し、信篤幼稚園の敷地部分はすべて市川市域内にある。

《その他》

- ・ 市立幼稚園の今後のあり方については、市内の現況や幼児教育・保育に関する国の動向などを踏まえた案に関する意見募集（パブリックコメント）が令和6年1月20日～令和6年2月19日の期間で実施された。その内容を受け、本構想では後述する駅前公共施設に導入する公共施設の機能・規模の検討から幼稚園の機能を一旦除外している。

(3) 信篤公民館

構 造	鉄筋コンクリート造	延べ面積	1,392.91㎡	
階 数	地上3階建て	築 年 数	築42年	
備 考	公民館内には信篤こども館（広さ48.52㎡）と地域ケアシステム信篤・二俣（広さ32.50㎡）が含まれている。			

《基本情報》

- ・ 会議室、研修室、調理実習室、和室など計9室で構成されている。この他、屋外にミニプールがある。
- ・ 「信篤こども館」や「地域ケアシステム信篤・二俣」を併設。市内の公民館の中では貸室の利用件数が比較的多い。

《施設の利用動向》

- ・ 利用者数は令和元年度で51,898人で、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、令和2年度は15,251人まで減少した。その後は回復傾向にあり、令和4年度の利用者数は34,345人となっている。
- ・ 利用者からは、徒歩や自転車などでの施設へのアクセスの利便性やスペースの広さなどで評価されている。
- ・ 平日（日中）、月1回以上の頻度で利用する利用者が多い。

《施設の管理・運営の実態》

- ・ 施設の稼働率は概ね30%強で推移している。利用者の課題認識として、予約が取りづらいこと、施設の老朽化等に伴う快適性の低下、施設・機能と利用者ニーズの乖離等が挙げられる。
- ・ 建物の耐震性は確保されているものの、築年数が古く設備の老朽化が進んでおり、改修や修繕で対応している。
- ・ 利用者が公共施設に求める機能として、防災機能とともに「多様な世代や属性の市民が利用し、交流できるコミュニティ形成の拠点」「豊かな時間を過ごせる『第三の居場所』」などが挙げられている。

(4) 信篤こども館

《施設の利用動向》

- ・ 公民館に併設されており、床面積は48.52㎡と、市内で最も小規模なこども館である。
- ・ 平成30年度の利用者数は年間11,520人で、1日当たり約40人の利用があった。
- ・ 利用者からは施設の機能・設備、徒歩や自転車などでのアクセスの利便性などが評価されている。またスペースの広さを評価する声がある一方で、より利用しやすくなる・利用したくなる工夫として、多目的に柔軟に利用できるスペース、スペースの広さを重要

な点とする声もあり、評価が分かれている。

- ・ 平日（日中）、月 1 回以上の頻度で利用する利用者が多い。
- ・ 令和元年度（令和 2 年 2 月）以降、コロナウイルス感染拡大防止のための全館休館の措置のため、利用者数は令和 2 年度にかけて大幅に減少している。
- ・ 令和 4 年度は、4,863 人（291 日）、1 日当たり約 17 人の利用があり、コロナ禍の影響による落ち込みから徐々に持ち直しつつある。

≪施設の管理・運営の実態≫

- ・ 利用者の対象年齢は 18 歳までとしているが、現状の主な利用者は乳幼児とその保護者である。
- ・ 利用者が公共施設に求める機能として、「居心地のよいオープンスペース」「多様な世代や属性の市民が利用し、交流できるコミュニティ形成の拠点」「豊かな時間を過ごせる『第三の居場所』」などが挙げられている。これは、こども館利用者である、親子や小中高校生にも当てはまる。

（５）地域ケアシステム信篤・二俣

≪施設の利用動向≫

- ・ 公民館に併設されており、床面積は事務室と相談窓口で 32.50m²。サロン等を開催する際は、公民館の貸室を使用している。
- ・ 利用状況としては、サロン開催数はピーク時に 80 回／年（平成 24 年度）、拠点来所者数は 2,405 人／年（平成 27 年度）、サロン参加者数は 2,506 人／年（平成 29 年度）がピークとなっている。
- ・ 運営に関する定期的な会議が開催されており、拠点来所者数はピーク時に比べて減少傾向にあるものの、サロン参加者数は平成 29 年～令和元年の 3 か年は連続して 2,000 人／年を超えている。

≪施設の管理・運営の実態≫

- ・ 地域での支え合い、身近な場所での相談、行政の組織的な受け皿体制を柱とする、市内 15 カ所に設置された地域ケアシステムの拠点のひとつとして設置・運営されている。
- ・ 地域住民等で構成する地区社会福祉協議会を推進母体として、相談員が常駐し、地域ケア推進連絡会、相談員会議その他の運営に関する会議や相談事業、サロン活動等が展開されている。
- ・ スペースが不十分との指摘がなされており、また、車椅子の貸し出しをしていることから利用者向けの駐車場の併設も必要とされる。
- ・ 多世代の来所が見込まれるコミュニティ施設への配置が望まれている。

(6) 信篤市民体育館

構 造	鉄骨造	延べ面積	1,124.96㎡	 
階 数	体育館（棟） ：平屋 トレーニング棟 ：地上2階建て	築 年 数	体育館（棟） ：築39年 トレーニング棟 ：築31年	

《基本情報》

- ・ 体育館（棟）とトレーニング棟からなり、体育館の主な用途として、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球等が想定されている。

《施設の利用動向》

- ・ 令和3年度の団体の利用件数は1,442件、利用者数は21,835人で、うち約20%の4,265人はトレーニング室利用者である。ほとんどの利用者は市川市民であり、市外の方の利用はごく少数である。
- ・ 令和4年度の団体の利用件数は1,895件、利用者数は26,272人で、うち約15%の4,031人がトレーニング室利用者である。コロナ禍での制限が緩和されてきたこともあり、団体の利用件数、利用者数ともにコロナ禍前の水準に戻りつつある。
- ・ 平日（日中）、月1回以上利用する利用者が多く、施設の利用料や機能・設備、アクセスの利便性について満足度が高いと考えられる。

《施設の管理・運営の実態》

- ・ 一部改修されているものの、建物の老朽化度、快適性、環境性の評価が低くなっている。
- ・ 利用者からは、老朽化等に伴う快適性の低下や、今後の利用したくなる工夫として設備の充実などが指摘されており、待合室や収納スペース、更衣室、トイレ、駐車・駐輪スペースなどの改善が求められると考えられる。

(7) 信篤窓口連絡所

構 造	軽量鉄骨造	延 べ 面 積	77.76㎡	
階 数	平屋建て	築 年 数	築34年	

《基本情報》

- ・ 市内3か所ある窓口連絡所のひとつで、住所変更、住民票写し等の証明交付、年金現況届の証明、戸籍証明書等の交付、印鑑登録等を取り扱っている。
- ・ 専用駐車場が1台しかなく、自動車での利用はしにくい。

《施設の利用動向》

- ・ 主に住所変更や証明交付等の業務を取り扱っており、令和元年度は7,094人が利用した。新型コロナウイルスの感染拡大が始まった令和2年度は5,185人の利用にとどまっている。
- ・ その他、利用者数とともに、住民異動の取扱件数、印鑑登録、証明件数も年々、減少傾向にある。

《施設の管理・運営の実態》

- ・ 現状の利用者数の動向を踏まえながら、公民館や図書館、市民体育館の段階的な改修・更新や複合化と連動して、将来の施設利用者の増加見込み、行政手続きのオンライン化などの動向を踏まえた市民の利便性、コスト面の合理性等を勘案して、窓口連絡所を引き続き設置する意義やそのあり方を検討していくことが求められる。

5. 市民アンケート調査の実施

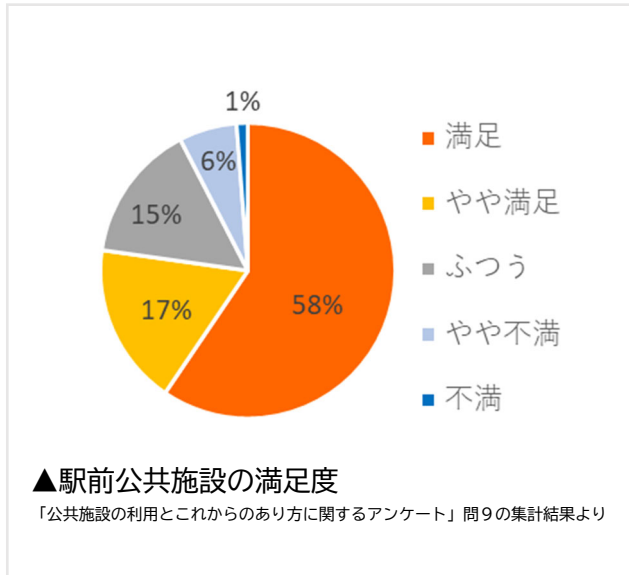
広く市民の意向を把握するため、地域を構成する以下の3つの要素（①公共施設、②まち、③ひと）について、アンケート調査を実施しました。

調 査 名 称		①公共施設 公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート	②まち・③ひと 住み続けられるまち・持続可能なまちにむけたアンケート
調 査 目 的		・施設利用の現状の把握（利用状況・満足度・改善点等） ・社会情勢を踏まえた今後の公共施設のニーズ（機能・サービス等）の把握	・市民の居住・暮らしや移動の現状の把握 ・生活様式の変化がある中での、住み続けたいまちづくりのニーズの把握
実 施 概 要	調 査 期 間	令和3年12月10日～24日	令和4年1月4日～10日
	調 査 対 象	各施設利用者 （信篤図書館、信篤市民体育館、信篤公民館、信篤こども館）	全市民
	調 査 方 法	施設内に回答スペースを設け、その場でアンケート用紙に回答。 ※信篤こども館は来館者にアンケート用紙を挟んだバインダーを配布	市公式Webサイトに掲載、Webページから回答
	調 査 項 目	<属性> 年齢 居住地 通勤・通学状況 市内公共施設の利用状況・利用頻度 コロナ禍での利用状況の変化 <利用施設について> 利用頻度 利用曜日・時間帯 交通手段 満足度・評価理由 <公共施設について> 課題 充実すべき機能 利用向上のための重要項目	<属性・お住まいの地域のこと> 年齢 居住地 居住年数 まちの満足度 コロナ禍での生活の変化 重要なまちの魅力 <交通手段> 交通手段 交通環境において実現が望まれる項目 <公共施設について> 課題 充実すべき機能 利用向上のための重要項目 <その他施設について> 商業施設 福祉・医療施設 健康生活のための必要施設 <まちの将来像> 目指すべきまちの姿
回 答 数		81件 （信篤図書館38件、信篤市民体育館10件、信篤公民館8件、信篤こども館25件）	1,081件

6. 現状分析

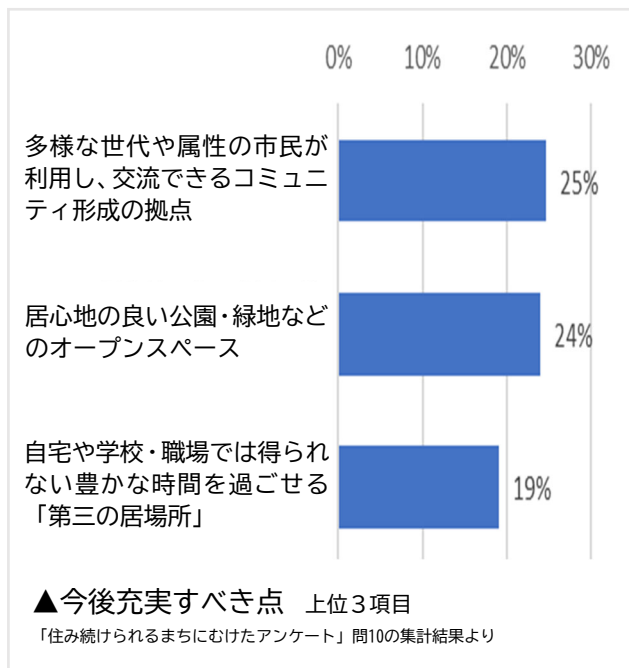
公共施設（駅前公共施設）、ひと、まちについて、現状分析を行いました。

（１）公共施設（駅前公共施設）



【利用頻度と満足度】身近な施設として親しまれている

- ・ 利用者アンケート（令和3年12月実施）の結果、回答者の約7割が原木中山地域の住民です。
- ・ アクセスの利便性や機能・設備について「満足」58%、「やや満足」17%、計約75%と高い評価を得ています。



【市民意向】施設の課題と市民ニーズとの乖離

- ・ アンケートでは、課題として、「老朽化による快適性の低下」、「ライフスタイルの多様化に伴う施設の機能とニーズの乖離」等が指摘されています。
- ・ 今後充実すべき機能として、「多様な世代や属性の市民が交流できるコミュニティ形成の拠点となる機能の拡充」「居心地の良いオープンスペースの確保」等が求められています。

(2) ひと

【人口推移とまちへの満足度】まちへの満足度が低く、子育て世帯が結婚や子育てを機に転出している。

▼信篤エリアにおける人口の変化

区 分	平成23年度	令和3年度
年少人口 (0～14歳)	4,201人	3,110人
生産年齢人口 (15～24歳)	2,695人	3,177人
(25～44歳)	11,690人	9,382人
(45～64歳)	7,262人	9,053人
老年人口 (65歳～)	3,681人	5,411人
合 計	29,529人	30,133人

町丁別人口（住民基本台帳）より作成

本統計データは町丁目単位（P2 青枠）の範囲で集計している。

- ・直近10年間の人口は微増傾向にありますが、老年人口が増加し、年少人口は減少しています。
- ・特に、子育て世帯とみられる0～14歳と25～44歳の人口減少が顕著となっています。

【コミュニティ活動】NPO法人は少ないが、サークル団体は多い。

- ・地縁のコミュニティとして10の自治会があり、それぞれの地域で活動しています。
- ・地域活動団体として対象地域を本拠とするNPO法人は4団体あり、市内の他の地域に比べ少ない状況です。
- ・信篤公民館を拠点に、趣味、学習、交流などのサークルが77団体、活動しています。

▼信篤公民館登録利用団体一覧

分類	団体数
音楽・カラオケ	17団体
健康体操・ストレッチ	11団体
踊り・ダンス	8団体
スポーツ・ウォーキング	5団体
情報処理	5団体
書道	4団体
子育て・読み聞かせ	3団体
地域・ボランティア活動	3団体
絵画	2団体

分類	団体数
語学・国際交流	2団体
手工芸	2団体
文学・文芸・歴史	2団体
料理	2団体
華道	1団体
その他の学習会	4団体
その他の伝統芸能サークル	2団体
その他の趣味サークル	1団体
どれにも含まれないサークル	3団体
合計	77団体

(3) まち

【広域的な位置づけ】立地の強み

- ・物流が集積する東京湾岸の一角に位置し、東京外郭環状道路へのアクセスも良好です。
- ・鉄道4路線で都心と結ばれており、東京駅まで約30分でアクセスできる好位置にあります。

【自然資源】江戸川や緑地、農地などの活用

- ・都市公園が少ない一方、江戸川及び川沿いの緑地、真間川沿いの農地等、自然的資源に恵まれています。

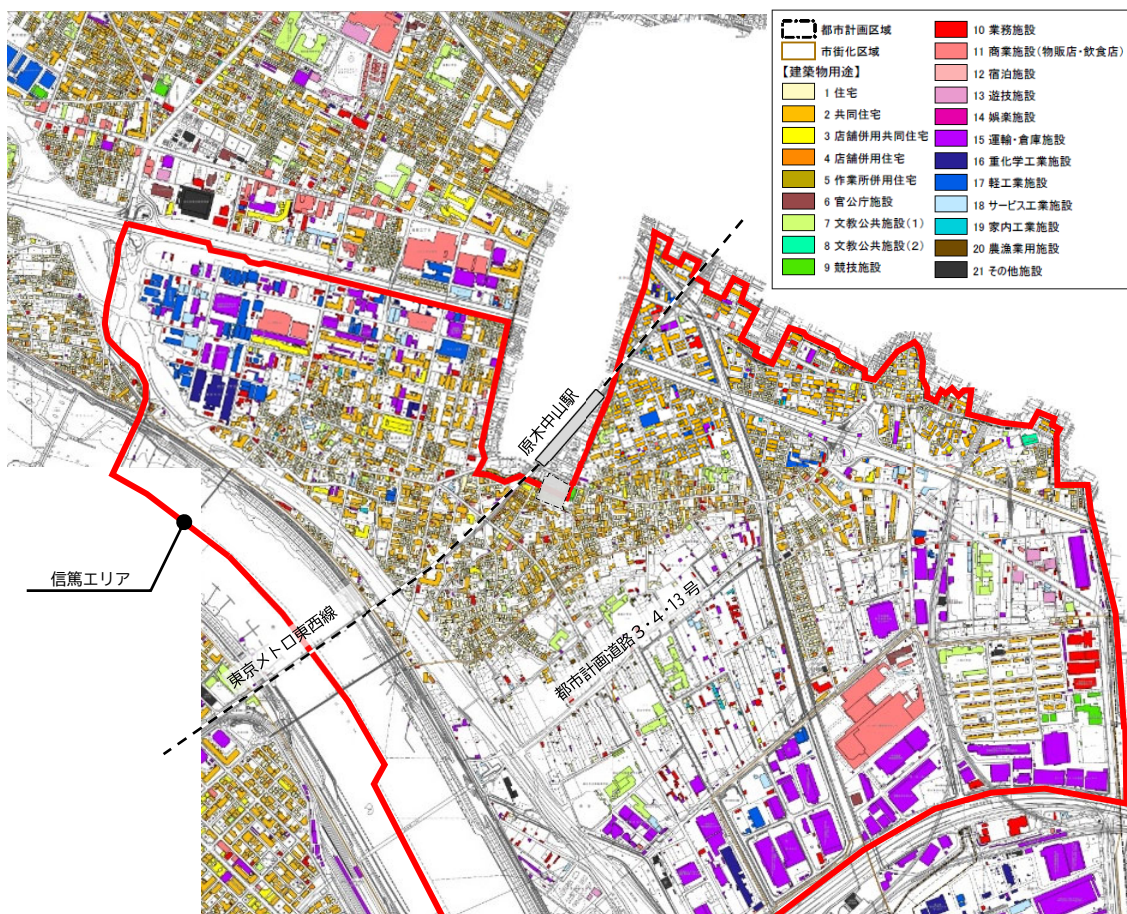
▼高速ネットワークと物流拠点



出典：東京都市白書2016.3発行

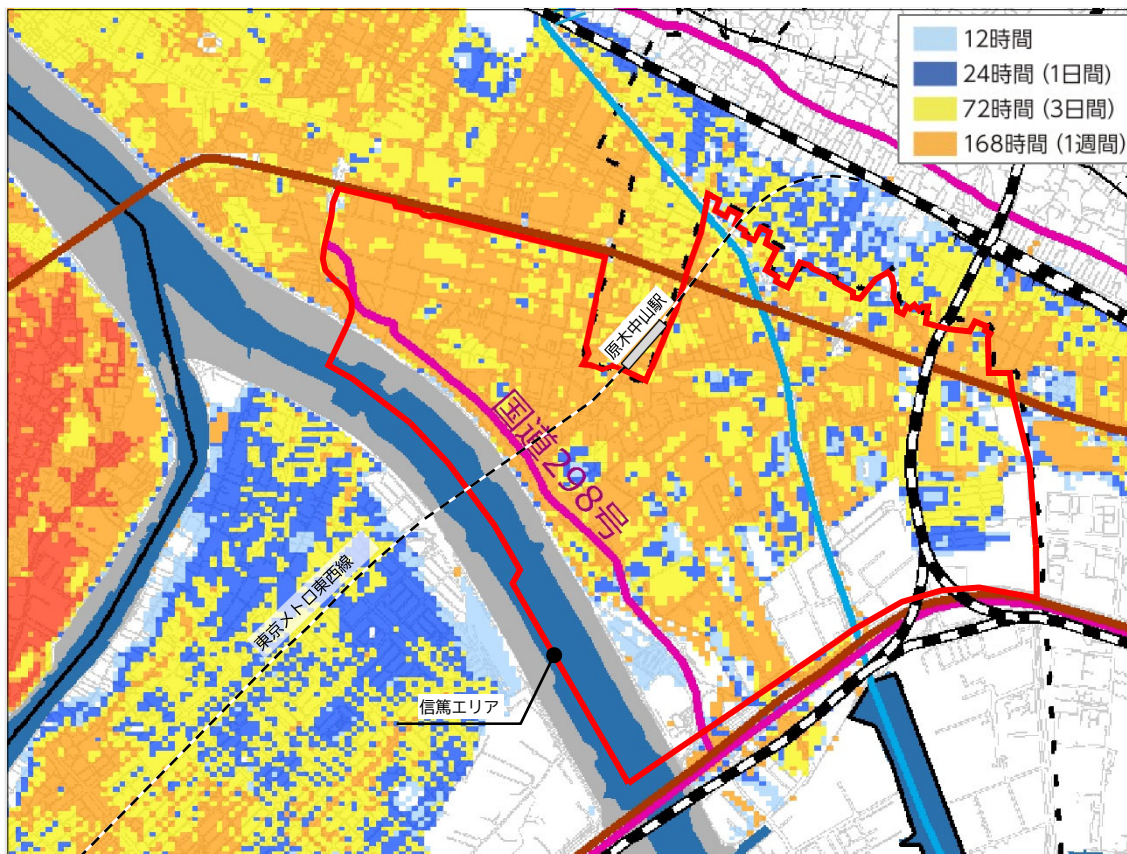
【土地利用動向】沿道土地利用の促進

- ・駅周辺の既成市街地では共同住宅と戸建住宅が混在し、行き止まり道路等が存在します。
- ・今後、都市計画道路3・4・13号の整備が進むことで、沿道土地利用の促進が期待されます。



【災害リスク】地震・液状化・浸水リスクへの対策

- ・信篤エリアでは、地震とそれに伴う液状化、高潮や河川氾濫による浸水が長時間継続するなどのリスクが高いとされています。
- ・このため、防災に関する地域住民のニーズは高く、公共施設の整備にあたっては、避難所等、災害に対する地域の強靱性を高める拠点としての機能を持たせる必要があります。



▲浸水が継続する時間 江戸川が氾濫した場合

出典：国土交通省江戸川河川事務所 利根川水系江戸川洪水浸水想定区域図（浸水継続時間）（国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所）
https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000681128.pdf を加工して作成

（４）現状分析まとめ

	課 題	将来にむけた可能性
公共施設	○駅前施設の再編時期が近い ○市民ニーズとの乖離	○駅前立地の活用
ひ と	○老年人口の増加と年少人口の減少 ○子育て世代の転出が多い	○若者世代の居住 ○交流やコミュニティを創出する機会
ま ち	○災害リスクへの対応 ○都市公園の不足	○災害時に活用できるオープンスペース ○広域交通の結節点

7. 基本方針の設定

(1) 公共施設・まちづくりのあり方

将来の社会の方向性や、次世代に向けたまち・コミュニティの役割や機能、コロナ禍による生活様式の変化等を踏まえ、公共施設やまちづくりのあり方を整理しました。

【公共施設】

～生活・行動の変化、多様なニーズに対応する公共施設～

- ① 中長期的なまちの変化や有事にも対応できる柔軟で可変的な空間・機能の提供
- ② 誰もが自分のスタイルで利用・交流できる空間・機能の提供
- ③ 市民サービス向上にむけたデジタル・サービスの活用

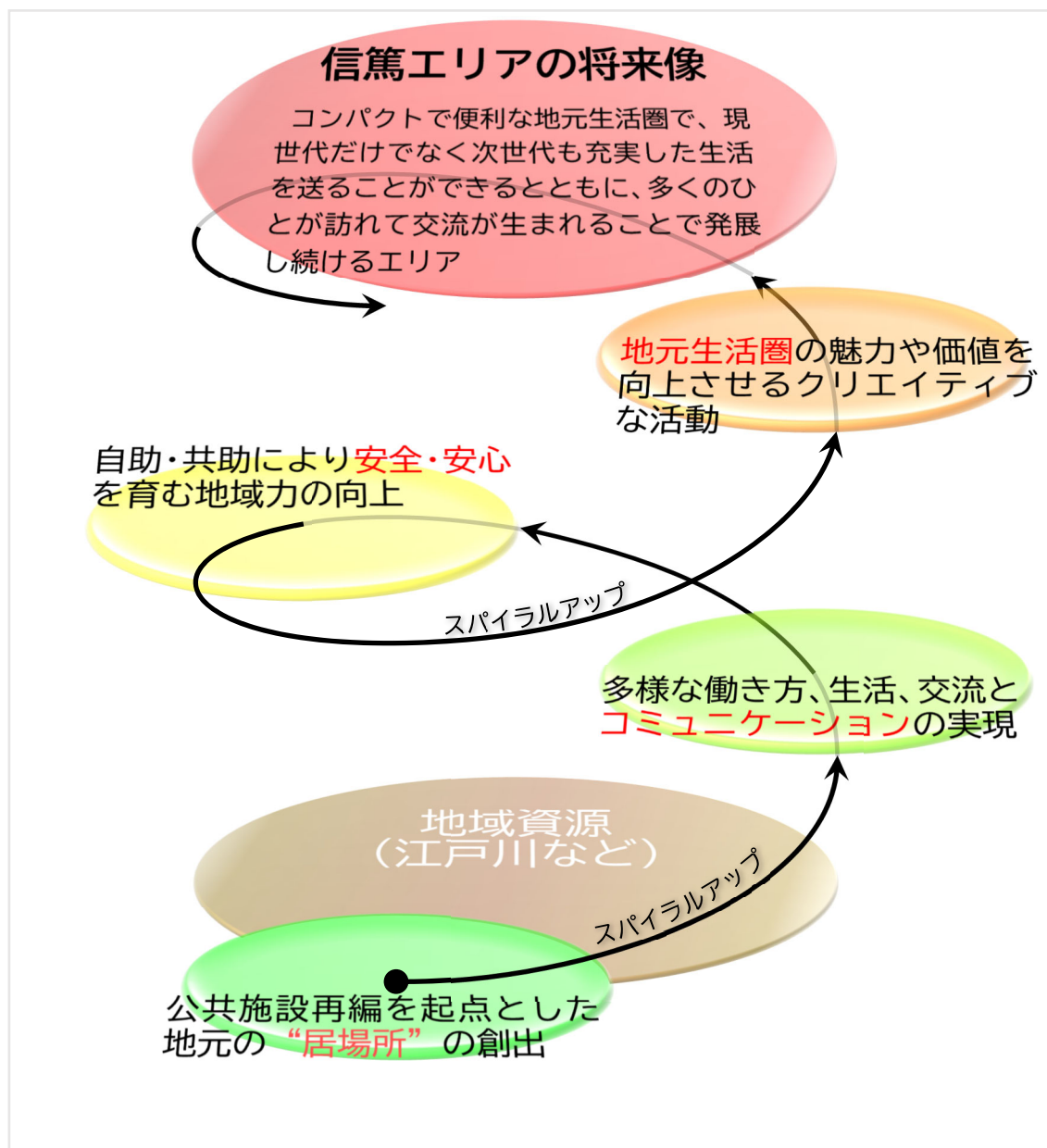
【まちづくり】

～魅力あるコンパクトな地元生活圏とコミュニティ～

- ① 地域資源（エネルギー、自然環境、インフラなど）の有効活用と持続可能性の確保
- ② 交通結節点という立地を生かした人流・物流による地域の活性化
- ③ リスク（災害、感染症、インフラやサプライチェーンの途絶等）に対する強靱性の確保
- ④ 総合的な生活シーン（住む・働く・学ぶ・買うなど）を提供できる快適でコンパクトな生活圏の形成
- ⑤ 地域コミュニティ（自治会などの地縁）とテーマ・コミュニティ（子育て・趣味・ボランティア等の活動に基づく知縁）を両軸としたコミュニティの多様化・重層化

（２）「信篤エリアの将来像」

各種関連計画との整合、市民アンケートの結果及び現状分析を踏まえて、目指すべきエリアの姿（将来像）を次のように定めます。



公共施設再編とコンパクトな生活圏の創造

利便性の高い原木中山駅前の公共施設群について、地域住民のライフスタイルに応じて自宅や職場・学校とは違った居心地のよい場所で、心地よく充実した時間を過ごせるコンパクトな生活圏を創造します。

駅前公共施設の再編が生み出す好循環（スパイラルアップ）

公共施設の再編を契機として、多様なひとがくつろぎ、学び、交流するような居心地のよい場所（居場所）がつくられていきます。こうした場所には、生活時間を柔軟に使い、子育てや仕事をしたいひと、学びや活動をしたいひと、創作したいひとなど、多様なひとが集まってきて、思い思いのスタイルで施設を利用するようになります。

そうした人々の日常生活の中で、公共施設の“居場所”は、新しい出会いが生まれ、交流とコミュニケーションの輪が広がる場となっていきます。そして、このような“ひと”と“ひと”のつながりは、大規模な災害が発生した時にも助け合える関係性を育て、エリアの安全・安心を支える自助・共助の力や様々な活動へとつながっていきます。

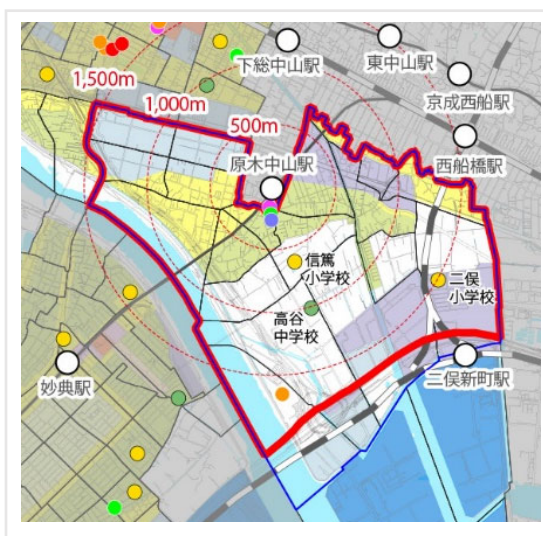
公共施設を起点とした様々な活動に触発されて、クリエイティブな活動がまち全体にも広がっていきます。暮らしに最も身近なエリアである「地元生活圏」のあちこちで、魅力や価値を高める活動が展開され、これに惹かれた多様なひとが出会って交流し、また新しい活動が生まれてまちの価値をさらに高めていく好循環（スパイラルアップ）が始まり、持続していきます。

（３）将来像を実現する「４つの基本方針」

「信篤エリアの将来像」を実現するため「４つの基本方針」を設定しました。

①コンパクトな生活圏で多世代が住み続けられるエリアづくり

交通アクセスの良さを生かしつつ、必要なまちの機能が集約された多様なライフスタイルに対応できるエリアとして発展することで、若者、子育て世代が熟年期、高齢期まで、ライフステージにあわせて住み続けられるコンパクトな生活圏を創造していきます。



コンパクトな生活圏とは・・・

原木中山駅を中心とする半径徒歩10～15分（800m～1 km程度）の歩いて暮らせる圏域を中心として、日常生活を支える行政サービスや生活利便施設などの機能が集約されているエリア、暮らしやすいエリア、住み続けられるエリアをイメージしています。

※これからの公共施設の再編方法（配置・規模・機能等のパターン）や、これをきっかけにした様々な「しかけ」で、地元生活圏の個性と魅力、新しい可能性が育まれていきます。

②誰もが健康で元気に自分らしく生活できるエリアづくり

高齢者や障がい者、子育て世帯など、誰もが自分らしく、いきいきと生活し、気軽に健康づくりやスポーツに親しんで元気に暮らせる環境を充実させていきます。



多様なひとの生活を豊かにする“居場所”を充実させる

駅前公共施設の再編・整備のなかで、様々な目的に応じて柔軟で可変的に利用できるスペースが用意され、自分にあったスタイルで過ごせる“居場所”をつくっていきます。思い思いに子育てや仕事、学び、スポーツ・健康づくり、交流の時間を過ごして、元気に生き生きと生活できる環境を充実させることで、若い世代から高齢者まで多世代が住み続けられる魅力を高めていきます。

③まち・ひとの多様な地域力を生かせるコミュニティを育むエリアづくり

公共施設の再編をきっかけとした居場所から広がるひととひとのつながりによって、これまで結婚・子育てを機に転出していた層が地域に根付き、新しい地域づくりの担い手として育つことで既成市街地の活性化を図ります。



新しい“居場所”からまち・コミュニティへの広がり

駅前公共施設の再編・整備で生まれた生活の魅力を高める多様な“居場所”から、ひととひとの出会い、つながりが広がっていくことで、これまで転出の多かった若い世代や子育て中のファミリーの暮らしの魅力を高める新しい交流やクリエイティブな活動が活発になっていくようなしなやかな展開していきます。

こうした取組の中で転出抑制や転入増加の効果が現れるのに伴って、様々な“居場所”で育まれたひとのつながりのなかから新しい地域づくりの担い手が育ち、相互に助け合う共助の力が醸成されていきます。

④再生可能エネルギーを活用した強靱で持続可能なエリアづくり

大規模災害のリスクに備え、「信篤エリア」の強靱性を高める拠点として公共施設を再編するとともに、エリアのコミュニティを活性化して自助・共助の取組を進めていきます。またエネルギーの地産地消や再生可能エネルギーの利用を展開し、脱炭素社会を目指した取組を進めていきます。



平常時の暮らし・活力を支える大規模災害への備え

大規模地震の際に想定される液状化や洪水時の浸水被害など、「信篤エリア」の災害リスクを踏まえ、その被害を最小限に抑え、行政サービス機能や地域の暮らしなどの様々な活動の継続性を支えられるよう、公共施設再編を核とした地域エネルギー利用との連携を進めていきます。

公共施設は、災害時の機能を考慮しながら再編・整備を進め、平常時も市民生活を豊かにし、「信篤エリア」やコミュニティを活性化させるよう計画することで、日ごろから自助・共助の力が育まれるような拠点、あるいは脱炭素社会を先導する拠点となることを目指します。

(4) 土地利用の考え方

対象地（約8,828㎡）について、容積率200%であることから最大約17,600㎡の床ができることが想定されます。

後述する各公共機能で想定する規模の合計が約3,500㎡であることから、最大約14,100㎡の余剰床の機能は、民間の収益部分として、民間事業者の提案から最もふさわしいものを採用することとします。

(5) 駅前公共施設の再編方針

駅前公共施設の再編方針については、現位置での個別建替え、複合化、分散、分散して複合化した場合のメリット・デメリットを検討した上で、既存の公共施設を「複合化」することが「信篤エリアの将来像」の実現に最もふさわしいものとして整理を行いました。

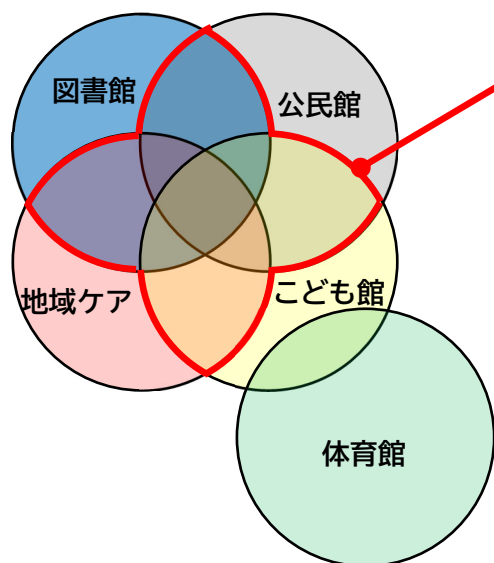
- ・ 駅前公共施設群については、長期休館や仮設施設での機能維持など、必要な対策を講じることが必要となりますが、新たな施設にとって必要な機能を制約なく配置できるほか、施設間の相乗効果も期待できます。また、施設を集約することで、各施設で共用可能な部分（トイレなど）を一体的に整備するなど、効率的な計画と運営が可能となることも、複合化が望ましい理由と考えます。
- ・ 現位置で施設を個別に建て替える場合、施設管理の負担が小さい点では有効ですが、建物が分散するため共用部分なども各建物に整備する必要が生じます。
- ・ 必ずしも駅前立地の必要性がさほど高くないとみられる一部の施設を区域外に移転させ、施設計画の自由度を高めることも考えられます。しかし、駅前の好立地を生かせず、移転先の土地を確保する必要があるほか、既存施設のもつ好立地のメリットが減退し、利用者サービスが低下する懸念があります。

駅前公共施設群の再編パターンのメリット・デメリット

「信篤エリアの将来像」の実現効果 ↑大 ↓小	再編方針	メリット	デメリット
	複 合 化	・ 必要な機能を制約なく配置	・ 長期休館や仮設の建物が必要
	分 散 し て 複 合 化	・ 必要な機能を制約なく配置 ・ 利便性向上・相乗効果が期待	・ 新たに土地を確保する必要あり
	現 位 置 で 建 替 え	・ 施設管理の負担が小さい	・ 敷地の有効活用が図れない
	分 散 (全施設)	・ 必要な機能を制約なく配置	・ 新たに土地を確保する必要あり ・ 駅前の好立地を生かせない

（６）駅前公共施設の組み合わせのメリット（例示）

既存施設の複合化を前提として、各公共施設間が生み出す相乗効果の具体例を示します。この中には公共施設の規模の縮小と機能を充実させるものもあり、事業の進捗にあわせ、導入の検討をまいります。



特に組み合わせのメリットの大きい図書館・公民館（地域ケア・こども館）は、複合化にあわせて各施設が連携・共用できる可変的なスペースとして、壁の少ないオープンな空間にデザインすることが考えられます。

例えば、アートや芸術のワークショップのような体験的な活動に触れる機会が広がる、図書館を訪れたひとがそうした活動に刺激を受けて新しい活動を始めきっかけになるなど、それぞれの活動が融合して新たな活動や交流が広がっていくことが考えられます。

凡例

- ：公共施設間の機能連携の観点
- ◆：民間活力の導入（官民連携による事業手法、施設の運営手法、運営コスト）の観点
- ：環境・エネルギー面への配慮及びユニバーサルデザインへの配慮

イ【公民館×地域ケア】

- 公民館の諸室を地域ケアシステムのサロン活動の場としてシェアすること（機能連携と効率的な運営）が可能。
- ◆公民館の運営業務の一部を地域ケアシステム運営者（社会福祉協議会等）が運営することの可能性。
- 交流スペースなどに、福祉相談などのふれあいのスペースを設置するなど空間の効率的な活用の可能性。

□【図書館×公民館】

- 利用者の目的が比較的近く、特に文化的活動を行っていく上での連携効果が期待できる。
- 蔵書を用いた朗読や読み聞かせなどのイベントを連携して行うことでサービス向上を図れる。
- ◆指定管理者制度の導入などによる同一事業者での運営による効率化も期待できる。
- 講座・活動・交流・くつろぎのスペースなどの施設を一体整備することで空間の柔軟で可変的な利用が可能。（諸室の共用、共用部の縮減、空調機器等の共通化、エネルギー使用量抑制などの効果が期待される）

ハ【地域ケア×こども館】

- 地域ケアシステムのコンテンツとこども館のイベント等の共催や連携といった一体的な運営が可能。
- スペースを一体的・連続的な空間デザインで構成し、高齢者や子育て世代、こどもなど、多世代の交流を促す。

ニ【公民館×こども館】

- 両館の利用者がともに参加できる事業を展開することで、多世代交流の場を提供。
- オープンスペースをお茶やお菓子をつまみながら大人とこどもが自由に話せる居心地の良い場として整備し、世代を超えた地域の触れ合いを創出。

ホ【図書館×こども館】

- 利用者層の親和性が高く、子どもの学習支援や自習などのニーズに応えることが可能。
- 図書館での本の探し方や読み聞かせなどのイベントを連携して行うことでサービス向上を図れる。
- 読書や読み聞かせのためのスペースを一体的に整備することで、施設の効率的・効果的な運用が可能。

ヘ【図書館×地域ケア】

- サロン活動のスペースを一体整備することでの効率化が可能。

ト【体育館×こども館】

- こどもの運動やスポーツ活動との高い親和性の活用。
- 体育館をこどもの遊び場として開放するなど、空間の効率的な運用が可能。

8. 「駅前公共施設」に導入する施設の機能・規模の検討

(1) 図書館施設機能

■機能の考え方

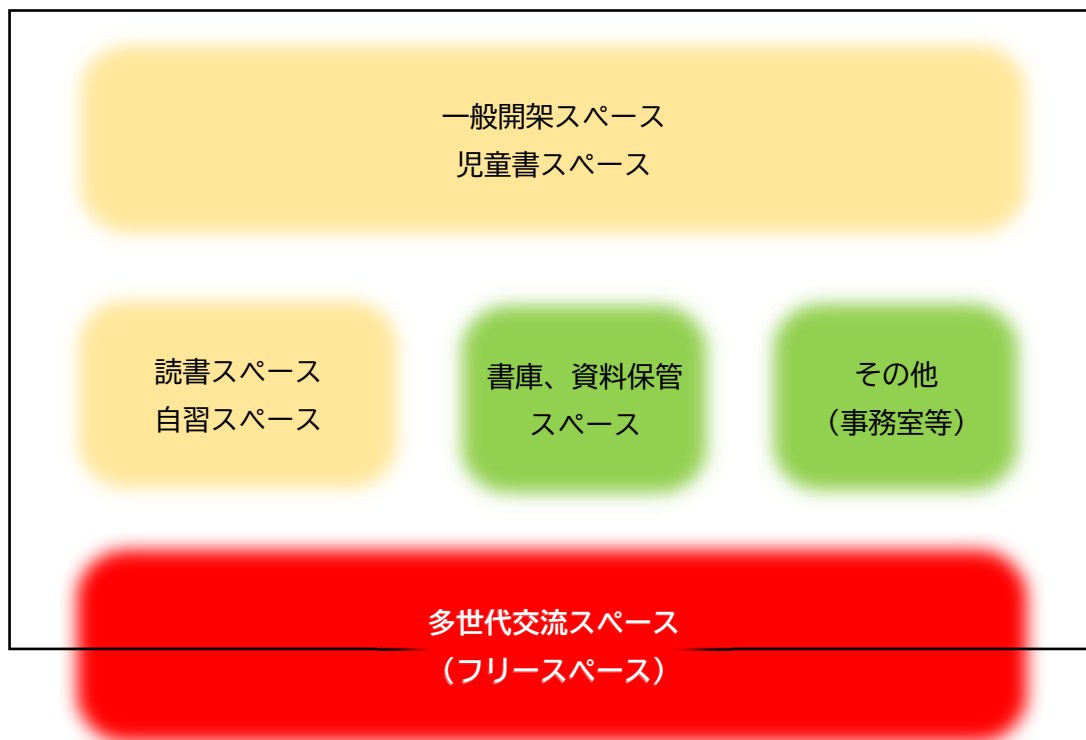
- ・ 地域に根ざす図書館としての使い勝手に着目し、駅を利用する通勤・通学者を含めた利用者の利便性と読書環境の向上を図ります。
- ・ 図書の貸し出し等既存のサービスに加え、集会施設機能や体育館施設機能と連携した第三の居場所（サードプレイス）としての機能を備えた図書館を目指します。

■規模の考え方

- ・ 蔵書数に対する規模（㎡当たり蔵書数）については現状もゆとりがある（近年、バリアフリーに配慮された図書館は開架室で100冊/㎡程度で計画している）ため、現行面積900㎡の維持を基本とします。
- ・ 今後、施設配置等の検討にあわせて、基本計画の中で具現化していきます。

■整備イメージ

▼図書館施設機能 想定規模約 900 ㎡



(2) 集会施設機能（こども館の機能、地域ケアシステムの機能を含む）

■機能の考え方

- ・地域のコミュニティ拠点や、第三の居場所（サードプレイス）としての機能が求められていることから、一定のルールの下で市民が自由に活動できる場として集会施設を整備します。あわせて、法令上社会教育施設である公民館の将来の社会的役割を見定めた「あり方」の検討を進めます。会議室等の活動の場はハードとして維持した上で、より柔軟な運営の可能性を模索していきます。
- ・こども館は、対象年齢を18歳までとしています。現状では中高校生の活動支援の場としてはあまり機能していません。駅前という立地を生かし、通学等で電車を利用する層を含めた中高校生世代を対象とした機能を、同じく中高校生世代の利用が多いと見込まれる図書館機能と組み合わせて検討します。
- ・地域ケアシステムは地区社会福祉協議会が運営しており、地域活動など利用の様態が公民館又はコミュニティーセンターといった貸館施設と親和性が高いものとなっています。このため、整備の効率性の観点から、本集会施設機能と併設することを基本とし、活動内容によってはフリースペースでの実施も検討します。

■規模の考え方

- ・現行の約1,400㎡程度を出発点として、複合化による共用スペース（廊下、階段、トイレ等）の縮減などにより生み出されるフリースペースを付加的に活用します。
- ・信篤こども館は、市内のこども館の中でもっとも規模が小さい（広さ48.52㎡）が、未就学児の利用者は多いことから、主に中高校生世代向けの機能（自習スペースなど）は複合化によって生み出されるフリースペースや図書館など他施設のスペースの活用で賄うものと考えます。
- ・今後、施設配置等の検討にあわせて、基本計画の中で具現化していきます。

■整備イメージ



(3) 体育館施設機能

■機能の考え方

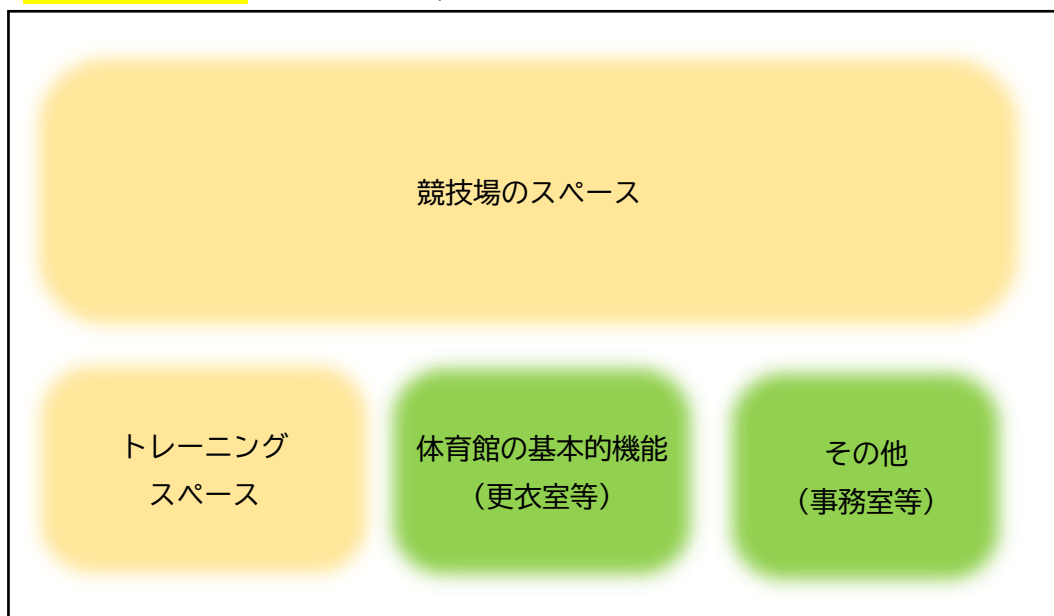
- ・ 体育館として基本的機能（更衣室など）を整備し、利用者が気持ちよく体を動かせる環境を整えます。
- ・ 比較的広域からの利用者の便宜のため、駐車場等の設備の充実を検討します。

■規模の考え方

- ・ 地域の人々が気軽に体を動かせる体育館として、現状でも十分な広さ（バスケットコート1面、バレーボール2面、バドミントンコート4面）であり、現行規模約1,100㎡を基本とします。
- ・ 今後、施設配置等の検討にあわせて、基本計画の中で具現化していきます。

■整備イメージ

▼体育館施設機能 想定規模約 1,100 ㎡



(4) 市民窓口機能

■機能の考え方

- ・ 各種証明などを取り扱う行政の窓口として効率的に事務処理を行うのに必要な事務スペースや機材を備えます。
- ・ 当面は現行の機能を維持することとしますが、ICT化の進展などを踏まえた将来的な行政事務のあり方に応じて、信篤エリアの市民窓口としての役割を考えていきます。

■規模の考え方

- ・ 想定規模は現行規模の約100㎡とします。
- ・ 今後、施設配置等の検討にあわせて、基本計画の中で具現化していきます。

■整備イメージ



(5) 民間機能

■公・民の施設の併存・合築の可能性

- ・ 本基本構想の対象施設をはじめ、本市の公共施設の多くが昭和40～50年代にかけて整備されており、築30年以上を経て老朽化が進む現在は、順次建て替えの時期を迎えます。
- ・ 建て替えには多くの費用がかかります。このため、将来の人口構成の変化や人口減少の影響を見据え、市民の新たなニーズに対応しつつ、施設の整備や維持管理にかかるコストを抑え、安定的な施設運営を図る必要があります。
- ・ こうした背景から、近年、民間の資本やノウハウを活用し、公共施設と民間施設の合築など、公・民の施設を一体的に整備する動きが広がっています。

■機能・規模の考え方

- ・ 一体的整備による公共施設の整備コストの圧縮や、民間事業者のアイデアやノウハウを生かした維持管理コストの低減、市民の新たなニーズに応える公共サービスの充実など、創意工夫による施設の機能や規模の提案を民間事業者に求めています。

(公民施設の一体的整備：他自治体の例)

- ＊ 公有地に定期借地権を設定し、民間事業者が建物を整備。建物は公・民が区分所有し、子育て支援施設や保育施設（公共）、スーパーマーケット等（民間）の複合施設として整備（練馬区）。
- ＊ 公有地に建つ庁舎と公会堂を新築するに当たり、余剰となる敷地に定期借地権を設定、民間事業者が分譲マンションを建設。借地権設定による対価を新庁舎・新公会堂の財源とし、庁舎建設費の負担がゼロとなった。（渋谷区）

■整備イメージ

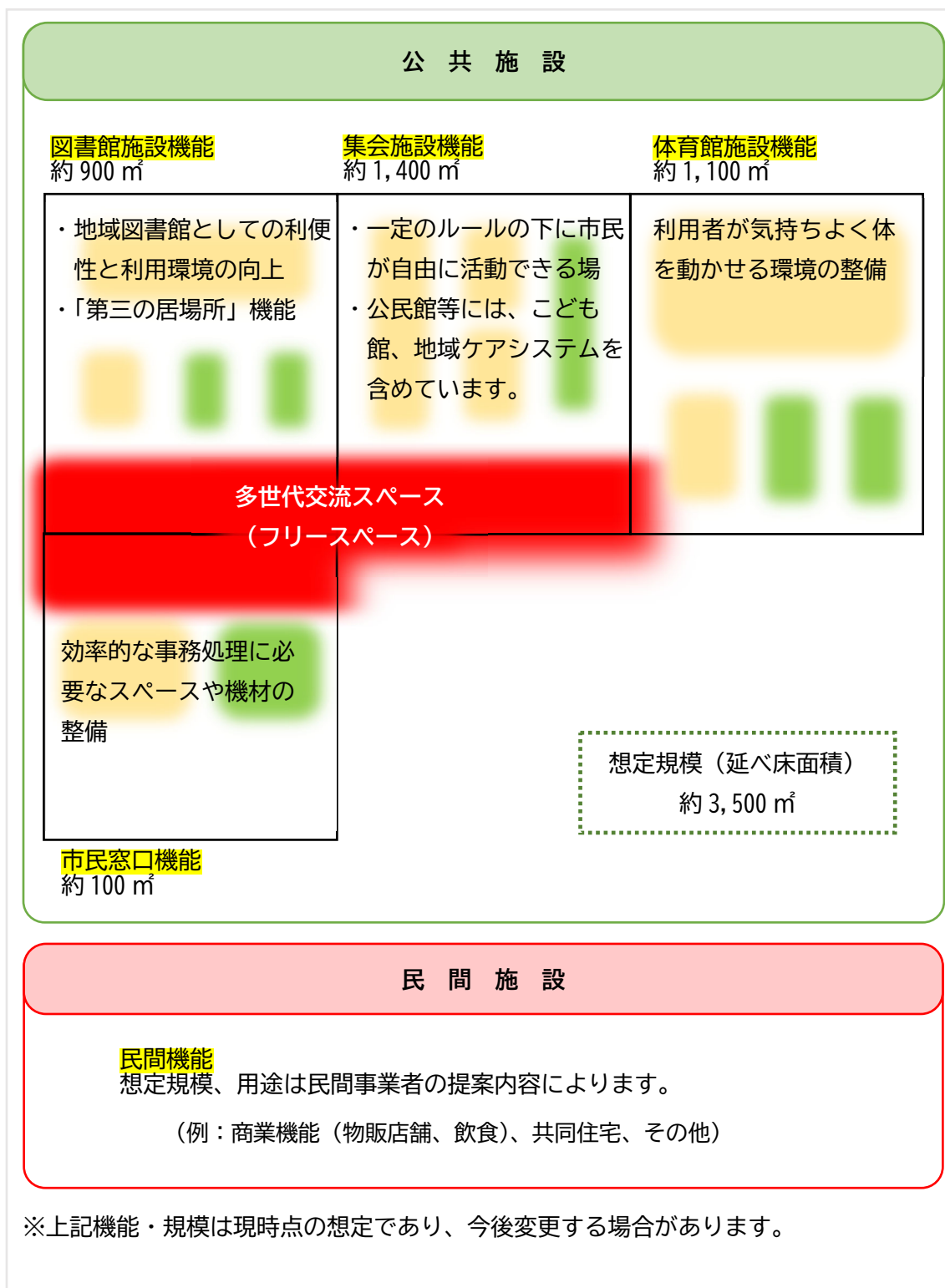
民 間 施 設

民間機能

想定規模、用途は民間事業者の提案内容によります。

（例：商業機能（物販店舗、飲食）、共同住宅、その他）

(6) 導入機能・想定規模のまとめ



9. 事業手法

事業手法については、総事業費を圧縮し、民間の経営資源、技術やノウハウを活用するため、従来型の事業手法とあわせて PPP/PFI（公民連携）手法による事業実施を比較検証し、効果的で効率的な事業手法を検討します。

従来の公共施設の整備は、公有地に役所が建築工事を発注し、完成した建物を所有して施設を設置する形がほとんどでした。この場合、民間施設との共存・連携は、例えば施設内に有人・無人の店舗（食堂、喫茶、物販、自動販売機など）を置くなどがありますが、概ね小規模なものにとどまり、施設のコスト軽減としての効果はあまり高くないものと考えられます。

そこで、原木中山駅前公共施設の再編整備では、駅前の公有地という立地条件を生かし、民間事業者が収益を確保しながら、その資本やノウハウを生かして公共施設の整備を行い、整備にかかる市の負担を軽減することが可能であると考え、民間事業者の考えを聴くサウンディング調査を行うなど、その手法を具体的に検討していきます。

○公民連携（PPP）とは：

公（行政）と民（民間企業・団体等）が連携して行政サービスの提供を行うことにより、民間が持つ経営資源、ノウハウや創意工夫等を活用して、市民サービスの向上や業務効率の向上、地域経済の活性化等を図るものです。公と民がそれぞれの強みを生かすことによって、最適な公共サービスの提供を実現し、地域の価値や住民満足度の最大化を図るなどさまざまな形で活用されています。

（PPP：Public Private Partnershipの略）

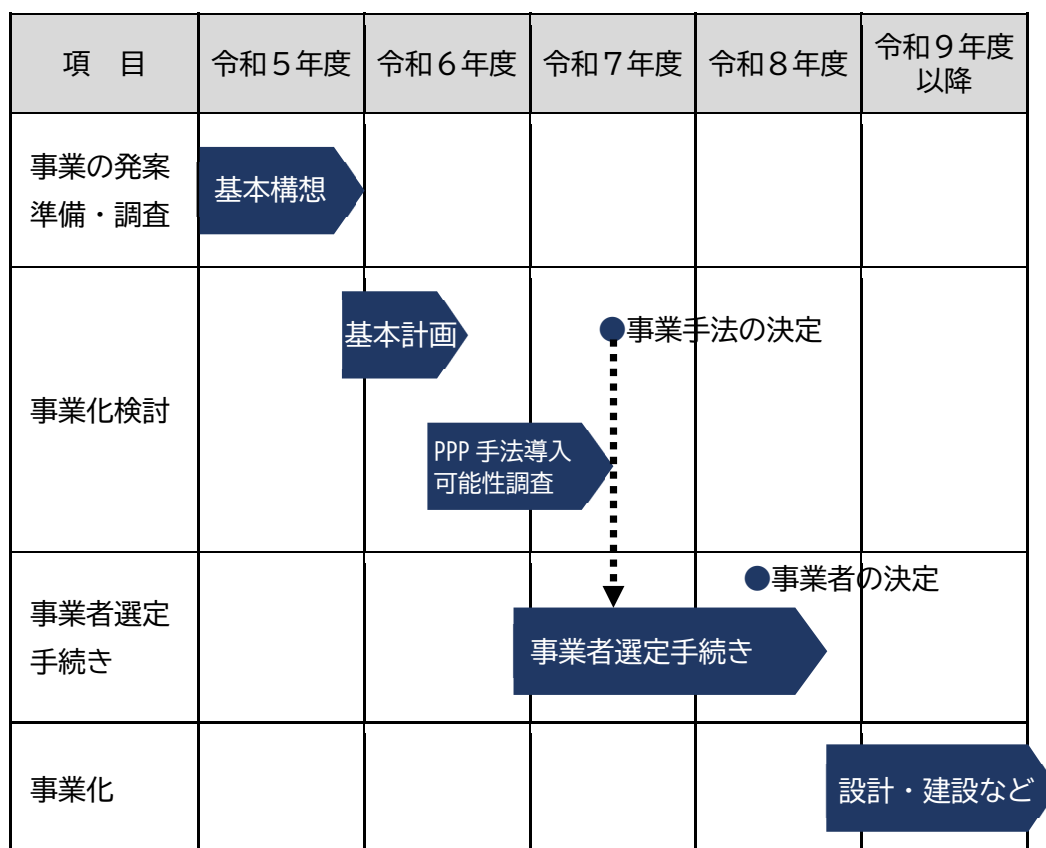
○PFIとは：

公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法です。「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI法）」より事業の枠組みが設けられています。

（PFI：Private Finance Initiativeの略）

10. 想定スケジュール

事業化に向け、概ね以下のようなスケジュールを想定し、今後、基本計画の策定やPPP手法導入可能性調査を行った上で、事業スキームを決定し、スケジュールを具体化します。民間の参入が見込める場合は、実施方針や要求水準書、募集要項等を作成するとともに、必要な手続きを経て、募集・選定作業を行います。



- ・ スケジュールは現時点での想定であり、基本計画策定において具体化します。
- ・ 民間参入の可能性が見込めない場合は、事業者選定手続きは行いません。
- ・ 設計・建設等の期間は、事業内容によります。

信篤エリアに求められる原木中山駅前公共施設再編整備基本構想

令和6年5月 発行

編集発行 市川市 管財部 公共施設マネジメント課

〒272-8501 千葉県市川市八幡1-1-1

別冊資料

市民アンケート調査 調査票

公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

現在の公共施設の利用状況と、社会情勢を踏まえた公共施設のニーズ（機能・サービス等）を把握し、今後の施設のあり方を検討する際の参考にすることを目的とし、アンケート調査を実施いたします。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

施設名

▼あなたご自身のことをお聞かせください

問 1 あなたの年齢を教えてください。当てはまるものひとつに✓をつけてください。

☐ 0歳～10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代 ☐ 80歳以上

問 2 あなたの居住地（地区）を教えてください。当てはまる地域を✓し町名に○をつけてください。

- ☐ **原木中山地域**（稲荷木 2～3 丁目・田尻・高谷・原木・二俣新町・二俣・上妙典・高谷新町・東浜）
☐ **市川大野地域**（大町・大野町・柏井町・南大野・奉免町・下貝塚・北方町 4 丁目・宮久保 4～6 丁目・東菅野 5 丁目）
☐ **北国分地域**（北国分・堀之内・稲越・曾谷・東国分・中国分・国分 4～7 丁目・国府台 3～6 丁目）
☐ **市川地域**（市川・市川南・真間・大洲・新田・須和田・菅野・国分 1～3 丁目・国府台 1～2 丁目・宮久保 1～2 丁目・平田 2 丁目・東菅野 2 丁目）
☐ **本八幡地域**（本北方・若宮・八幡・北方・中山・鬼越・南八幡・大和田・東大和田・鬼高・高石神・平田 1、3～4 丁目・宮久保 3 丁目・東菅野 1、3～4 丁目・稲荷木 1 丁目）
☐ **行徳地域** ☐ **市外**

問 3 あなたの通勤・通学の状況を教えてください。当てはまるものひとつに✓をつけてください。

- ☐ 自宅 ☐ 市内（自宅以外）に通勤・通学している ☐ 市外（県内）に通勤・通学している
☐ 市外（県外）に通勤・通学している ☐ 通勤・通学していない

問 4 あなたの市川市内の公共施設の利用状況を教えてください。施設ごとに下記の選択肢 1～4 の数字をひとつ（ ）の中にご記入ください。

選択肢	1. よく利用している（月 1 回以上）	2. たまに利用する（年に数回程度）
	3. 過去に利用したことがある	4. 1 回も利用したことがない

（記入例） 2. たまに利用する（年に数回程度）を選択する場合： （ 2 ） 図書館

（ ） 図書館	（ ） 集会施設（公民館、地域ふれあい館等）
（ ） スポーツ施設	（ ） 子育て支援施設（こども館等）
（ ） 庁舎等	（ ） 福祉施設等（いきいきセンター、地域ケアシステム拠点）
（ ） 文化施設（文化会館、東山魁夷記念館等）	（ ） 観光・レクリエーション施設（道の駅、動植物園等）

問 5 新型コロナウイルスの感染拡大によって、あなたの公共施設利用への影響はありましたか。当てはまるもの全てに✓をつけてください。

- ☐ 利用頻度が減った ☐ 利用頻度が増えた ☐ 利用人数を減らした ☐ 利用内容を変えた
☐ 利用時間帯を変えた ☐ 影響なし ☐ その他（具体的に記入： ）

裏面に続きます👉

▼本日、利用した施設についてお聞かせください

問 6 本日利用した施設の利用頻度を教えてください。当てはまるものひとつに✓をつけてください。

- ☐ よく利用している（月 1 回以上）
 ☐ たまに利用する（年に数回程度）
☐ 数年ぶりに利用した（→問 8 へ）
 ☐ 初めて利用した（→問 8 へ）

問 6 で「よく利用している」「たまに利用する（年に数回程度）」と回答された方はお答えください。

問 7 本日利用した施設をよく利用される曜日・時間帯を教えてください。当てはまるものひとつに✓をつけてください。

- ☐ 平日（日中）
 ☐ 平日（通勤・通学の帰りの時間）
 ☐ 休日（日中）
 ☐ 休日（夜間）
 ☐ 特になし

問 8 本日利用した施設には、主にどのような交通手段で来ましたか。当てはまるものひとつに✓をつけてください。

- ☐ 徒歩
 ☐ 自転車
 ☐ バス
 ☐ 自動車
 ☐ 鉄道
 ☐ その他

問 9 本日利用した施設の利用には、どの程度、満足されましたか。当てはまるものひとつに✓をつけてください。

- ☐ 満足
 ☐ やや満足
 ☐ ふつう
 ☐ やや不満
 ☐ 不満

問 10 問 9 の回答は、どのような点で評価されましたか。当てはまるもの全てに✓をつけてください。

- ☐ 施設の機能や設備
 ☐ 利用したスペースの広さ
 ☐ 施設の利用料
 ☐ 予約等のしやすさ
☐ 施設の立地・施設までの交通利便性
 ☐ その他（具体的に記入： ）

▼これからの公共施設について、あなたのお考えをお聞かせください

問 11 市川市の公共施設について、課題と感ずることはあるでしょうか。当てはまるものひとつに✓をつけてください。

- ☐ ライフスタイルの多様化などに伴う施設の機能と利用者ニーズとの乖離
☐ 施設の老朽化等に伴う快適性の低下
 ☐ 施設の老朽化等に伴う安全性の低下
☐ 予約が取りづらい
 ☐ 特になし
 ☐ その他（具体的に記入： ）

問 12 市川市の公共施設全般について、今後、充実すべき機能として、最も重要なことは何でしょうか。当てはまるものひとつに✓をつけてください。

- ☐ 多様な世代や属性の市民が利用し、交流できるコミュニティ形成の拠点
☐ 自宅や学校・職場では得られない豊かな時間を過ごせる「第三の居場所」
☐ 多様なひとや様々な生活サービスをつなげる情報通信（ICT）の環境
☐ テレワークなどに対応した勉強や仕事を行えるスペース
 ☐ 避難所としての防災機能の向上
☐ 居心地のよい公園・緑地などのオープンスペース
 ☐ その他（具体的に記入： ）

問 13 市川市の公共施設をより利用しやすい・利用したくなる工夫として、重要な点について教えてください。当てはまるものを 3 つまで ✓をつけてください。

- ☐ 設備の充実
 ☐ スペースの広さ
 ☐ 多目的に、柔軟に利用できるスペース
☐ 利用時間の拡大
 ☐ 駐車スペースの拡大
 ☐ 施設の予約等がしやすいシステムやオンライン化
☐ 一つの施設に複数の機能を集約
 ☐ 民間施設との複合化
☐ 誰もが利用しやすい施設への改修（バリアフリー化等）
 ☐ その他（具体的に記入： ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

住み続けたいまちにむけたアンケート

概 要

目的：外かん道路などの交通網の変化やコロナ禍による生活様式の変化がある中で、住み続けたいまちづくりをどのように行うべきか、ご意見をお聞かせください。

対象：市川市に在住・在勤・在学している者／電子

期間：令和４年１月４日（火）～１月１０日（月）

【 設 問 】

あなたご自身とお住まいの地域のことをお聞かせください	
問 1	年齢
問 2	居住地
問 3	居住期間
問 4	身近なまちの満足度
問 5	コロナ禍による生活の変化
問 6	今後も住み続けるうえで重要な視点
あなたの利用する交通手段についてお聞かせください	
問 7	日常生活の移動の状況
問 8	今後、交通において実現が望ましいこと
これからの公共施設について、あなたのお考えをお聞かせください	
問 9	今後の市川市の公共施設で心配していること
問 10	今後、公共施設にどのような充実が求められるか
問 11	今後、公共施設をより利用しやすくする・利用したくなるための工夫
その他の施設についてお聞かせください	
問 12	商業施設について
問 13	福祉・医療施設（病院等）について
問 14	健康な生活を送るために必要な施設について
魅力あるまちの将来像についてあなたのお考えをお聞かせください	
問 15	今後目指すべきまちの姿

住み続けたいまちにむけたアンケート

▼あなたご自身とお住まいの地域のことをお聞かせください

問 1 あなたの年齢をお答えください。

- | | | | |
|-----------|--------|--------|----------|
| 1. 0歳～10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 |
| 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代 | 5. 80歳以上 |

問 2 あなたの現在の居住地（地区）をお答えください。

- 市川大野地域（大町・大野町・南大野・奉免町・下貝塚・北方町 4丁目・宮久保 4～6丁目・東菅野 5丁目）
- 北国分地域（北国分・堀之内・稲越・曾谷・東国分・中国分・国分 4～7丁目・国府台 3～6丁目）
- 市川地域（市川・市川南・真間・大洲・新田・須和田・菅野・国分 1～3丁目・国府台 1～2丁目・宮久保 1～2丁目・平田 2丁目・東菅野 2丁目）
- 本八幡地域（本北方・若宮・八幡・北方・中山・鬼越・南八幡・大和田・東大和田・鬼高・高石神・平田 1、3～4丁目・宮久保 3丁目・東菅野 1、3～4丁目・稲荷木 1丁目）
- 原木中山地域（稲荷木 2～3丁目・田尻・高谷・原木・二俣・上妙典・高谷新町・東浜）
- 行徳地域
- 市外

問 3 あなたの現住所での居住年数をお答えください。当てはまる番号をひとつ選択してください。

- | | | | |
|-------------------|-------------|-----------|------------|
| 1. 生まれてからずっと住んでいる | 2. 1年未満 | 3. 1～5年未満 | 4. 5～10年未満 |
| 5. 10～20年未満 | 6. 20～30年未満 | 7. 30年以上 | |

問 4 あなたが現在お住いのまちの満足度についてお答えください。当てはまる番号をひとつ選択してください。

- | | | | | |
|-------|---------|------------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. どちらでもない | 4. やや不満 | 5. 不満 |
|-------|---------|------------|---------|-------|

問 5 あなたが現在お住いのまちの魅力についてお答えください。当てはまる番号を3つまで選択してください。

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 東京都心などへの交通利便性が高い | 2. 買い物などの利便性が高い |
| 3. 地域の交流やコミュニティが活発 | 4. 文化・芸術が感じられる |
| 5. 閑静な街並み（落ち着いた静かな環境） | 6. 子育てしやすさ |
| 7. 大規模災害や感染症拡大等の危機への備え | 8. 公園や緑地が多い |
| 9. その他（具体的に記入： _____） | |

問 6 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活の変化についてお答えください。当てはまる番号を全て選択してください。

- テレワークや自宅学習をするようになった
- 自宅周辺、徒歩圏内で買い物や用事を済ませるようになった
- オンラインで買い物や用事を済ませるようになった
- イベント、サークル活動等の減少により、ひととの交流が少なくなった
- 旅行に行かない代わりに、市内の観光スポットで楽しむようになった
- その他（具体的に記入： _____）

▼これからの公共施設について、あなたのお考えをお聞かせください

問9 市川市の公共施設について、課題と感ずることはあるでしょうか。当てはまる番号をひとつ選択してください。

- １．ライフスタイルの多様化などに伴う施設の機能と市民ニーズとの乖離
- ２．施設の老朽化等に伴う快適性の低下
- ３．施設の老朽化等に伴う安全性の低下
- ４．予約が取りづらい
- ５．特になし
- ６．その他（具体的に記入：)

問 10 市川市の公共施設全般について、今後、充実すべき機能は何でしょうか。当てはまる番号を3つまで選択してください。

- １．多様な世代や属性の市民が利用し、交流できるコミュニティ形成の拠点
- ２．自宅や学校・職場では得られない豊かな時間を過ごす「第三の居場所」
- ３．多様なひとや様々な生活サービスをつなげる情報通信（ICT）の環境
- ４．テレワークなどに対応した仕事や勉強を行えるスペース
- ５．避難所としての防災機能の向上
- ６．居心地のよい公園・緑地などのオープンスペース
- ７．その他（具体的に記入：)

問 11 市川市の公共施設をより利用しやすくする・利用したくなる工夫として、重要な点についてお答えください。当てはまる番号を3つまで選択してください。

- １．設備の充実
- ２．スペースの広さ
- ３．多目的に、柔軟に利用できるスペース
- ４．利用時間の拡大
- ５．駐車スペースの拡大
- ６．施設の予約等がしやすいシステムやオンライン化
- ７．ひとつの施設に複数の機能を集約
- ８．民間施設との複合化
- ９．誰もが利用しやすい施設への改修（バリアフリー化等）
10. その他（具体的に記入：)

▼その他の施設についてお考えをお聞かせください

問 12 あなたのライフスタイルにあったまちの商業施設をお答えください。当てはまる番号をひとつ選択してください。

1. 自宅近所の小売店
2. 駅前や中心市街地の商店街
3. 車等でアクセスしやすい大規模な商業施設
4. その他（具体的に記入： _____）

問 13 これからのまちの福祉・医療について、今後どのような施設が必要だと思いますか。当てはまる番号をひとつ選択してください。

1. 就業・生活支援、社会参加などの障がい者福祉施設
2. 介護予防、健康相談などを行う高齢者支援施設
3. 老人ホーム、デイサービスセンターなどの高齢者福祉施設
4. 保育園やこども館などの児童福祉施設
5. 近所に、普段から健康を見守ってくれる診療所（かかりつけ医）
6. アクセスしやすい場所に大規模な病院
7. その他（具体的に記入： _____）

問 14 今後、健康な生活を送るためにどのような施設が必要だと思いますか。当てはまる番号をひとつ選択してください。

1. 近所でくつろげる身近な公園
2. 広場やランニングコースを備えた大規模な公園
3. 陸上競技や球技等を行う屋外スポーツ施設
4. 適度な運動が可能な身近な体育館
5. スポーツ大会等が可能な大規模な体育館・アリーナ
6. その他（具体的に記入： _____）

▼魅力あるまちの将来像についてあなたのお考えをお聞かせください

問 15 あなたが現在お住まいのまちは、今後、どのようになれば良いと思いますか。当てはまる番号を2つまで選択してください。

1. にぎわいと活気のあるまち
2. だれもが安心して暮らせる福祉の充実したまち
3. 運動やお出かけがしやすい元気で健康に過ごせるまち
4. 地域で安心して子育てができるまち
5. 地球にやさしいクリーンでエコなまち
6. みどりやオープンスペースが豊富なまち
7. 大規模災害や感染症に備えた安全・安心に暮らせるまち
8. その他（具体的に記入： _____）

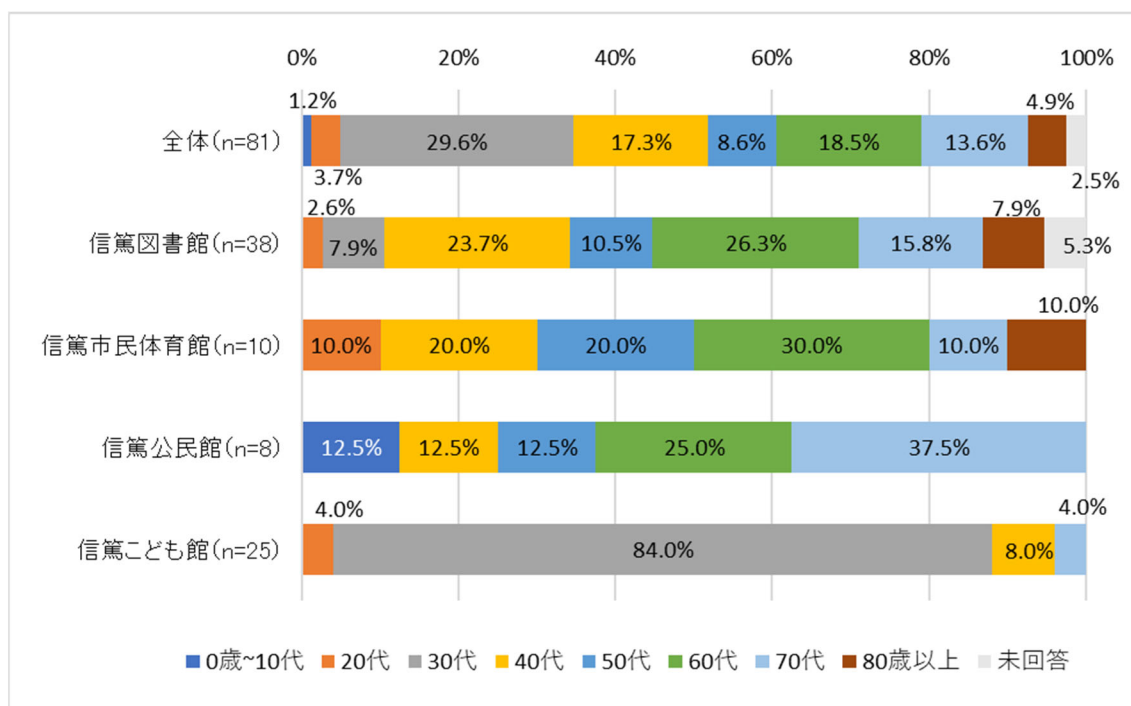
市民アンケート調査 結果

■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(1) あなたご自身について

問1 あなたの年齢を教えてください。

- ・年代は、30代がもっとも多く29.6%、次いで60代の18.5%、40代17.3%となっている。一方で、20代・50代・80代が比較的少なくなっている。0～10代については保護者が回答したものと考えられる。

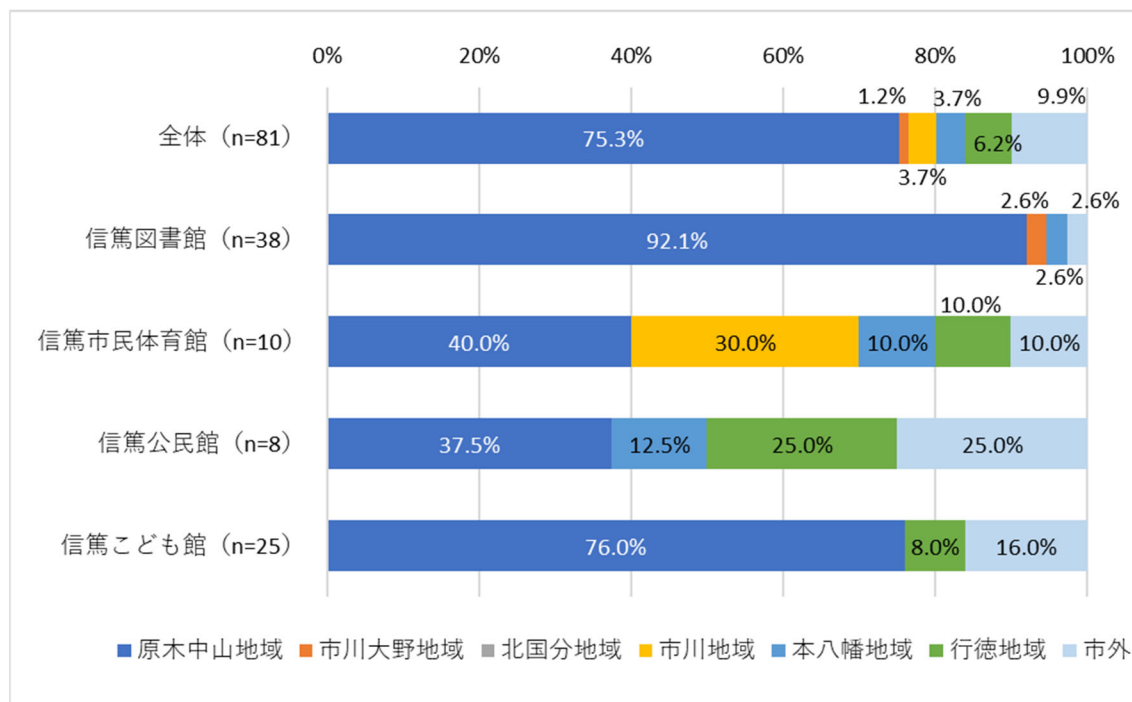


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(1) あなたご自身について

問2 あなたの居住地（地区）を教えてください。

・「原木中山地域」が75.3%と最も多く、地域の居住者の利用大半を占めている。また、「市外」が9.9%となっている一方で、市内他地域の利用は14.8%にとどまっており、他地域からの利用はあまり見られない。



■参考 町名別

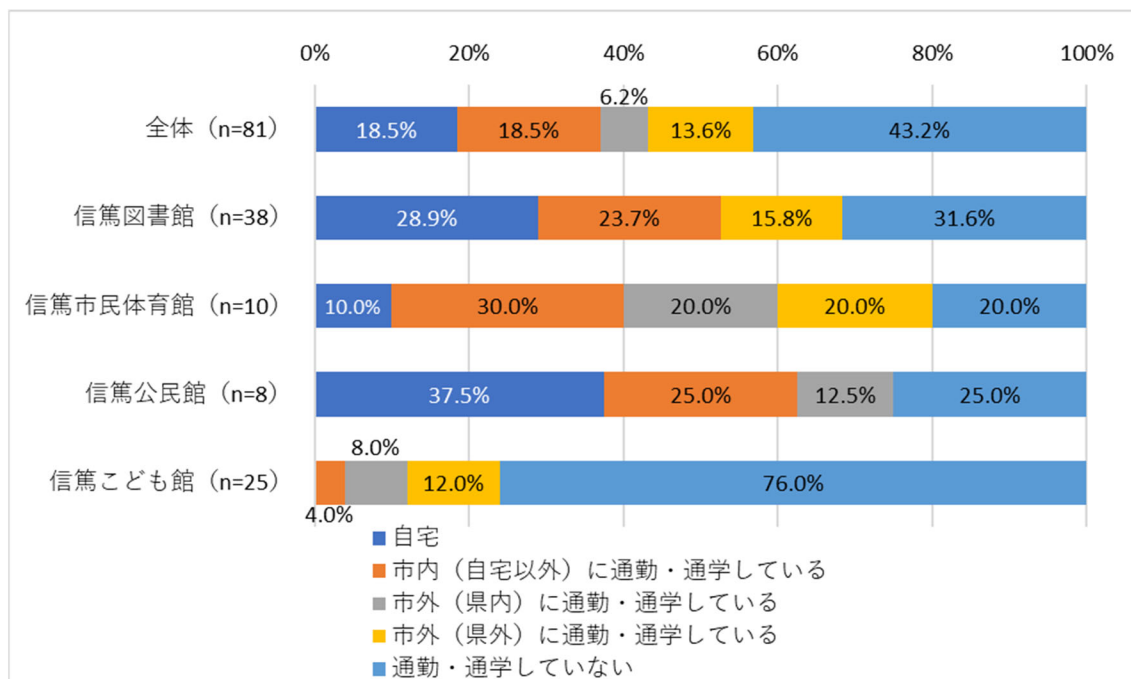
1. 市川大野地域（大町・大野町・南大野・奉免町・下貝塚・北方町4丁目・宮久保4～6丁目・東菅野5丁目）
2. 北国分地域（北国分・堀之内・稲越・曾谷・東国分・中国分・国分4～7丁目・国府台3～6丁目）
3. 市川地域（市川・市川南・真間・大洲・新田・須和田・菅野・国分1～3丁目・国府台1～2丁目・宮久保1～2丁目・平田2丁目・東菅野2丁目）
4. 本八幡地域（本北方・若宮・八幡・北方・中山・鬼越・南八幡・大和田・東大和田・鬼高・高石神・平田1、3～4丁目・宮久保3丁目・東菅野1、3～4丁目・稲荷木1丁目）
5. 原木中山地域（稲荷木2～3丁目・田尻・高谷・原木・二俣・上妙典・高谷新町・東浜）
6. 行徳地域（河原・妙典・下妙典・下新宿・本行徳・本塩・関ヶ島・伊勢宿・富浜・末広・塩焼・宝・幸・加藤新田・高浜町・千鳥町・押切・湊・湊新田・香取・欠真間・相之川・広尾・新井・南行徳・島尻・行徳駅前・入船・日之出・福栄・新浜・塩浜）
7. 市外

■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(1) あなたご自身について

問3 あなたの通勤・通学の状況を教えてください。

・「通勤・通学していない」がもっとも多く43.2%、次いで「自宅」、「市内に通勤・通学している」が18.5%となっている。市外通勤・通学者の利用は少ない傾向にあった。

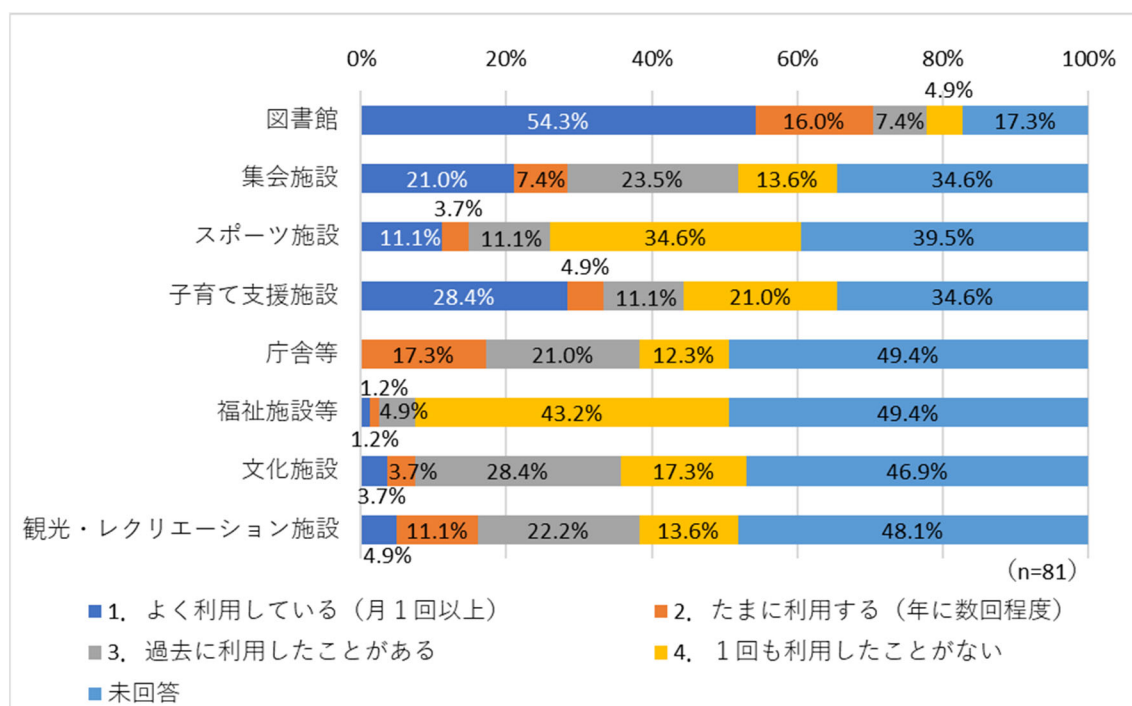


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(1) あなたご自身について

問4 あなたの市川市内の公共施設の利用状況を教えてください。

- ・図書館は、「よく利用している」が54.3%、「たまに利用する」16.0% で利用率がもっとも高くなっている。
- ・子育て支援施設は、「よく利用している」が28.4%と比較的高い傾向にある。
- ・スポーツ施設、福祉施設等は「1回も利用したことがない」それぞれ34.6%、43.2%となっており、利用者が限定されているものと考えられる。

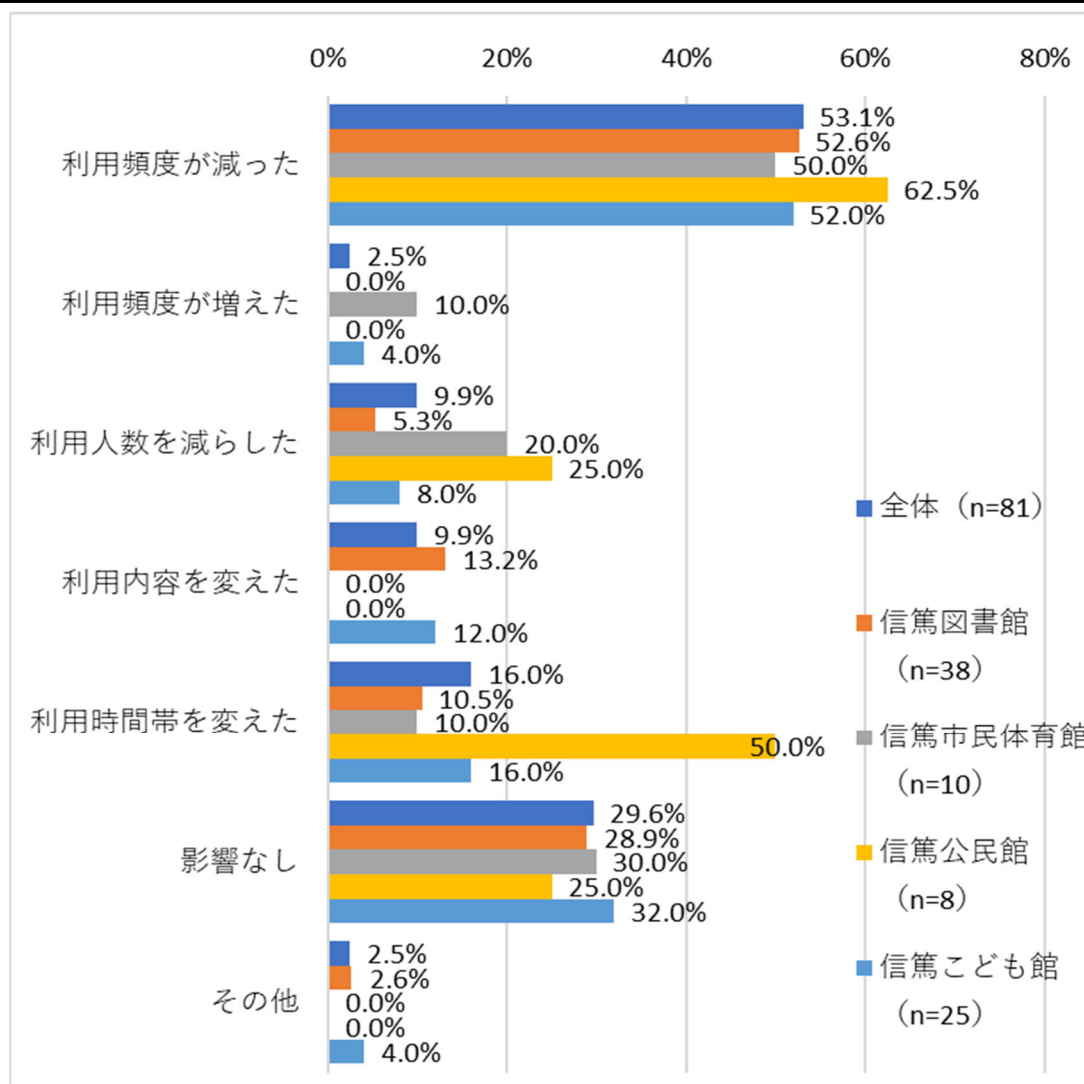


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(1) あなたご自身について

問5 新型コロナウイルスの感染拡大によって、あなたの公共施設利用への影響はありましたか。(複数回答)

- ・「影響なし」と回答された方は29.6%となっており、約7割の方は影響があったと回答している。
- ・「利用頻度が減った」がもっとも多く53.1%、次いで「利用時間帯を変えた」が16.0%、「利用人数を減らした」「利用内容を変えた」が9.9%となっている。利用者への影響が一定程度あったものと考えられる。
- ・回答者の大半は地域の居住者であり、市外通勤・通学者等の在宅時間も増加したものと考えられるが、行動制限等が伴ったことから利用への影響は出たものと推察される。
- ・その他では、図書館利用者からはネット利用であまり変わらないとの意見があった。

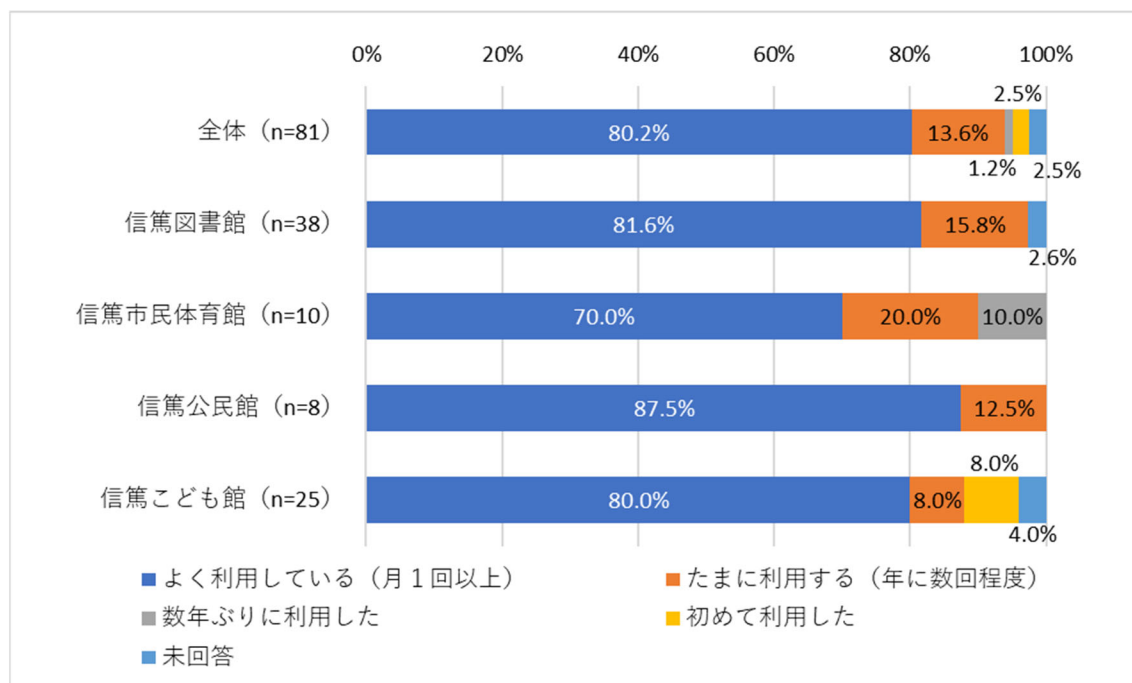


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(2) 利用施設について

問6 本日利用した施設の利用頻度を教えてください。

・「よく利用している」がもっとも多く80.2%、次いで「たまに利用する」の13.6%と合わせて9割を超えており、ほとんどの方が地域の身近な公共施設として日常的に利用しているものと考えられる。

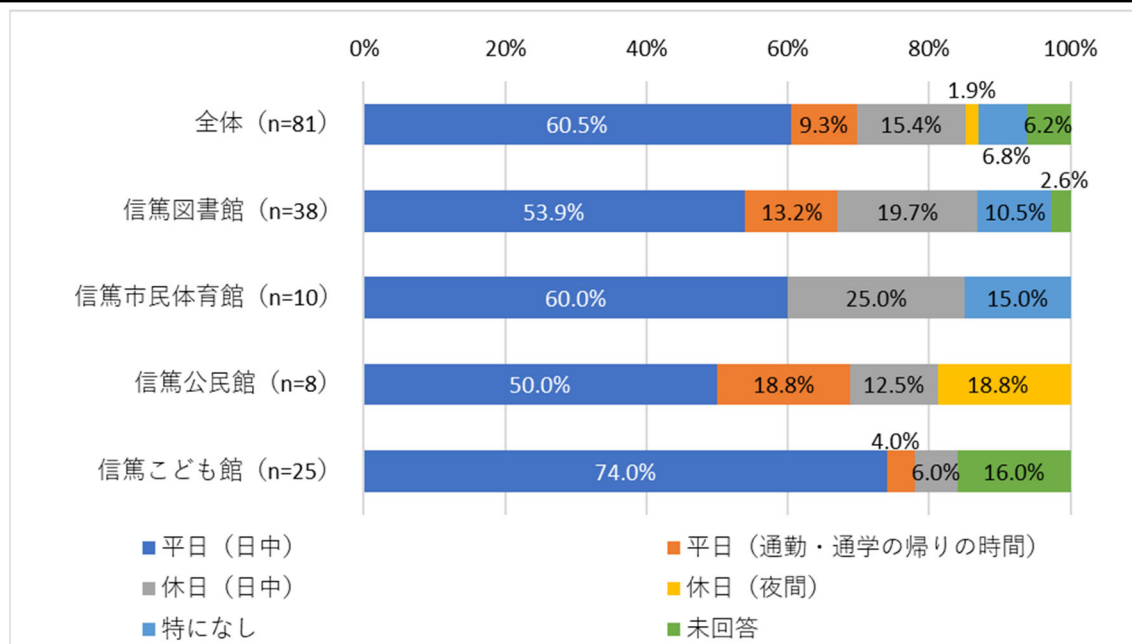


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(2) 利用施設について

問7 本日利用した施設をよく利用される曜日・時間帯を教えてください。

・「平日（日中）」がもっとも多く 60.5%、次いで「休日（日中）」が 15.4%となっている。
平日利用が通勤・通学の帰りの時間帯と合わせ約 7 割（69.8%）となっており、地域の身近な公共施設として日常的に利用しているものと考えられる。

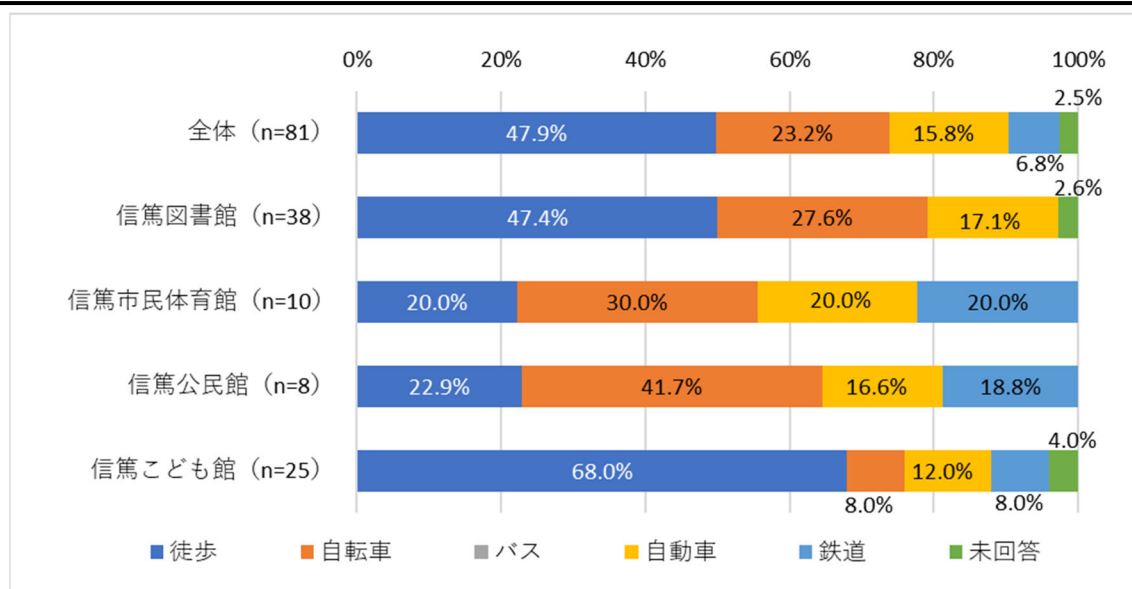


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(2) 利用施設について

問8 本日利用した施設には、主にどのような交通手段で来ましたか。

- ・「徒歩」がもっとも多く47.9%、次いで「自転車」が23.8%、「自動車」15.8%となっている。
地域の居住者の利用が大半を占めていたことから、徒歩・自転車圏内の方の利用が多くなっているものと考えられる。
- ・「鉄道」との回答は僅かながらにあったものの、「バス」はなかった。

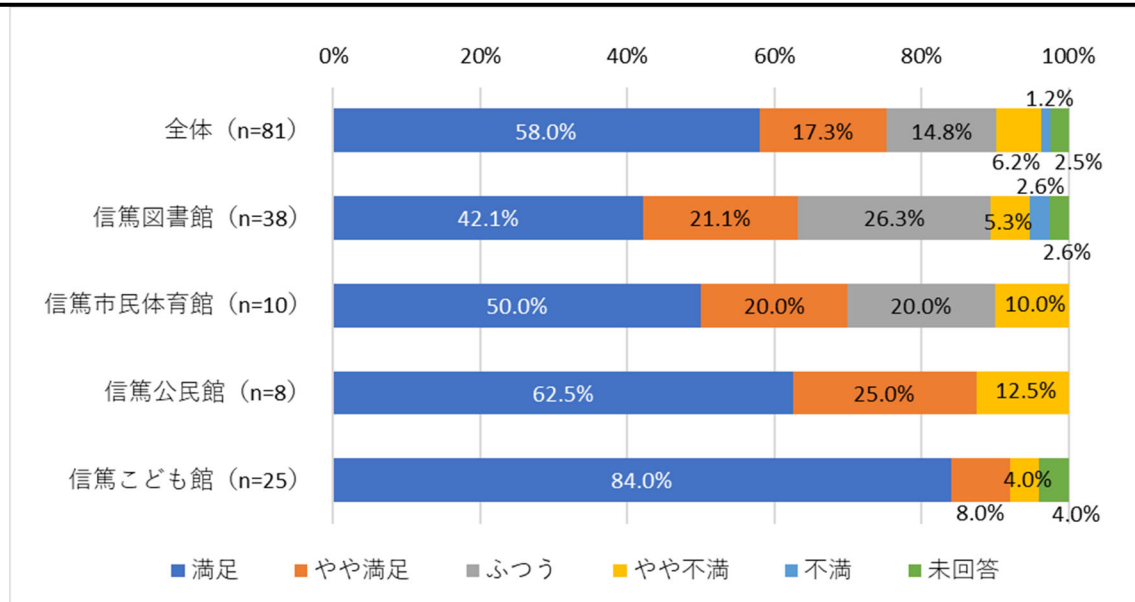


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(2) 利用施設について

問9 本日利用した施設の利用には、どの程度、満足されましたか。

・「満足」がもっとも多く58.0%、「満足」と「やや満足」を合わせ75.3%となっており、満足度は高くなっている。特にこども館の満足度は9割を超えており非常に高くなっている。

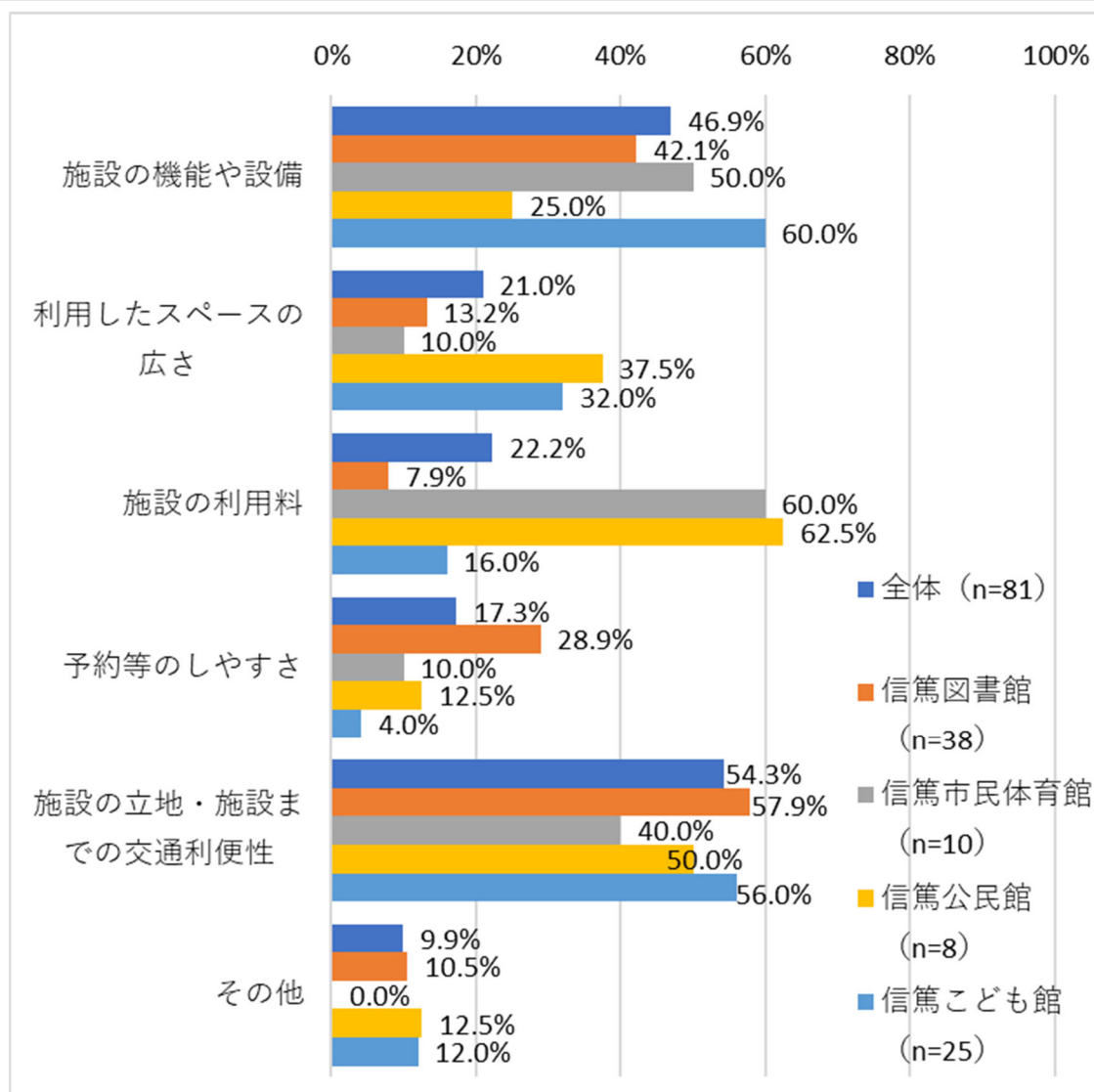


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(2) 利用施設について

問10 9の回答は、どのような観点で評価されましたか。(複数回答)

- ・「施設の立地・施設までの交通利便性」がもっとも多く54.3%、次いで「施設の機能や設備」が46.9%となっている。アクセスの利便性や機能・設備について評価されている。
- ・その他として、図書館やこども館ではスタッフの対応を評価する声が複数あがっており、スタッフの評価も高いものと考えられる。

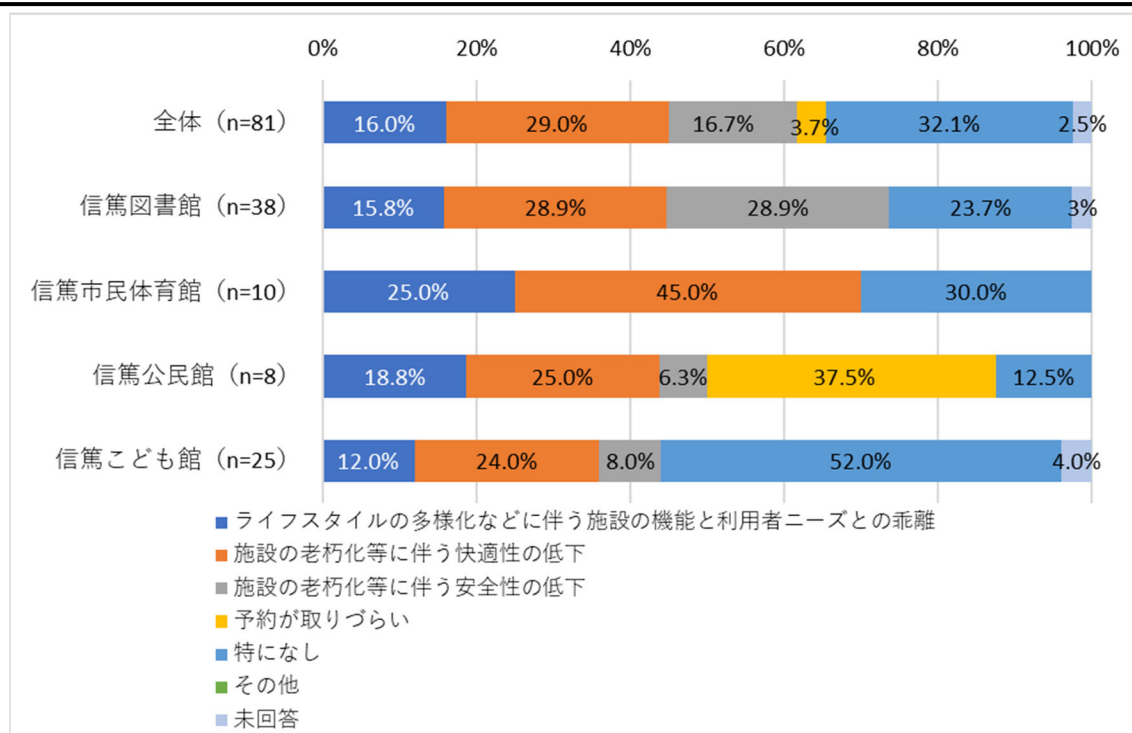


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(3) これからの公共施設について

問11 市川市の公共施設について、課題と感ずることはあるでしょうか。

- ・課題は「特になし」と回答された方は32.1%、したがって、約7割の方は何かしらの課題を感じている。中でも、「施設の老朽化等に伴う快適性の低下」は29.0%と最も多くなっている。「ライフスタイルの多様化などに伴う施設の機能と利用者ニーズの乖離」「施設の老朽化等に伴う安全性の低下」もそれぞれ16.0%、16.7%となっている。
- ・利用者ニーズに合わせた施設機能と、快適性や安全性が公共施設に求められているものと考えられる。
- ・「予約の取りづらさ」を課題とする意見は公民館のみみられた。利用希望が特定の時間帯に集中しているものと推察される。

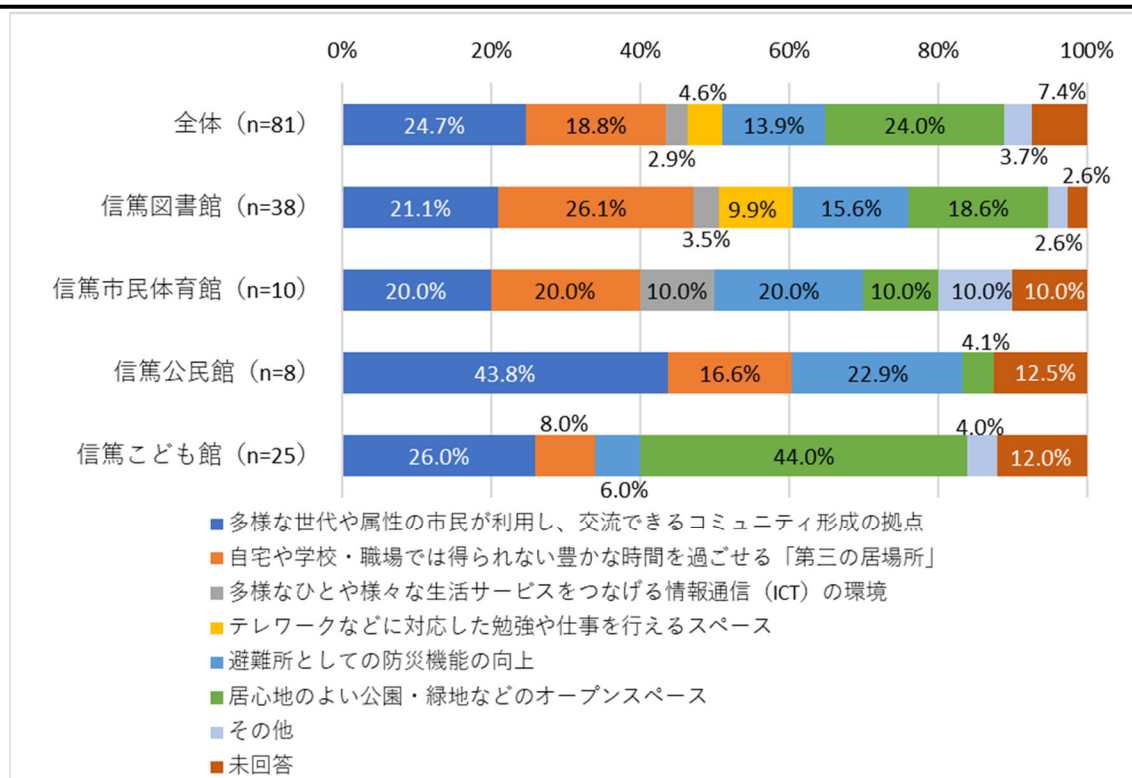


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(3) これからの公共施設について

問12 市川市の公共施設全般について、今後、充実すべき機能として、最も重要なことは何でしょうか。

- ・「多様な世代や属性の市民が利用し、交流できるコミュニティ形成の拠点」がもっとも多く24.7%、次いで「居心地のよい公園・緑地などのオープンスペース」が24.0%、「自宅や学校・職場では得られない豊かな時間を過ごせる第三の居場所」18.8%となっている。
- ・居心地のよいオープンスペースやコミュニティ形成の拠点、豊かな時間を過ごせる「第三の居場所」、防災機能などの充実など、多様な人々が集い交流し、居心地のよい快適な滞留空間であるとともに防災機能が公共施設に求められているものと考えられる。

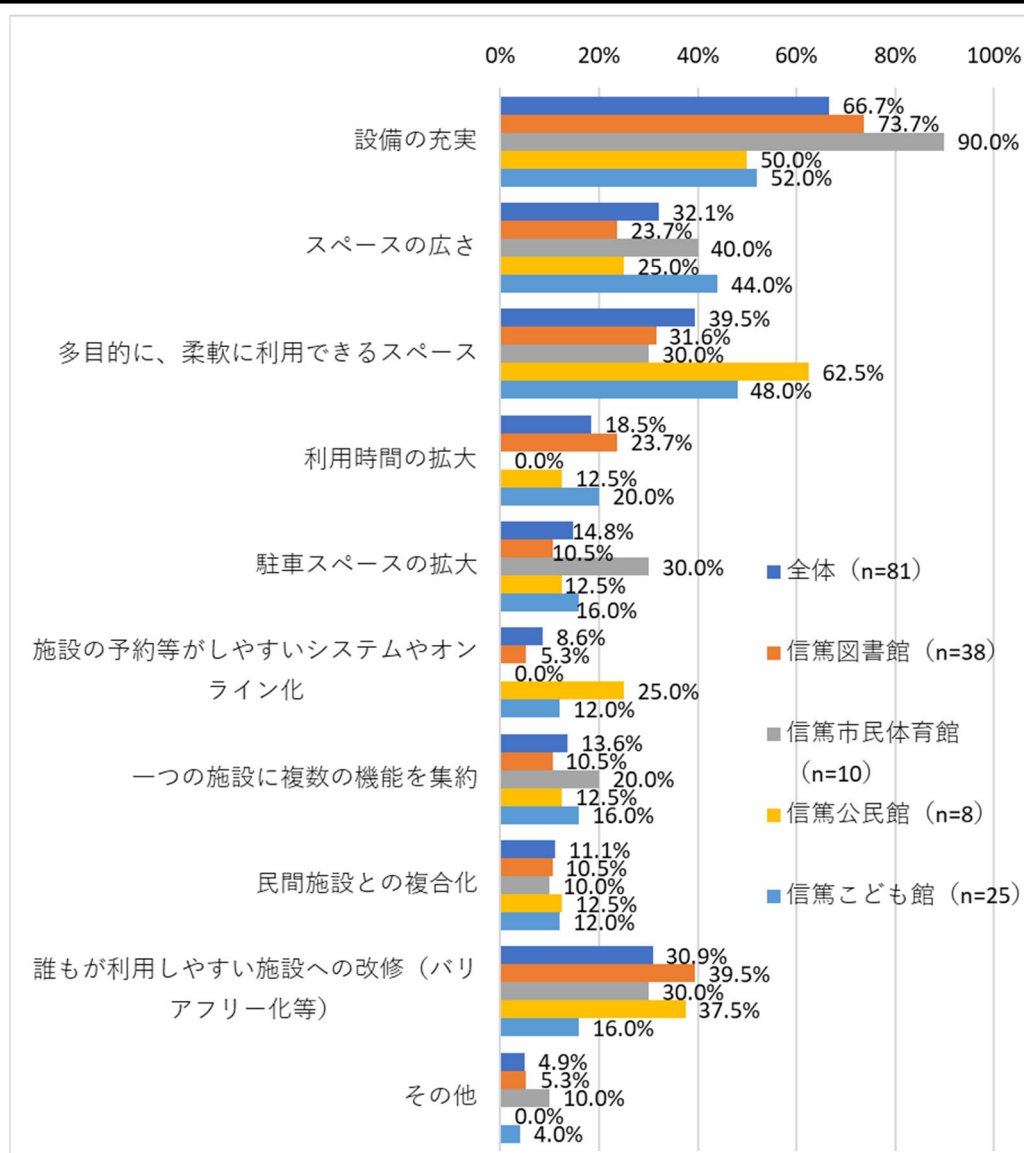


■公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート

(3) これからの公共施設について

問13 市川市の公共施設をより利用しやすくする・利用したくなる工夫として、重要な点について教えて下さい。(複数回答3つまで)

- ・「設備の充実」がもっとも多く66.7%、次いで「多目的に柔軟に利用できるスペース」が39.5%、「スペースの広さ」32.1%、「誰もが利用しやすい施設への改修」30.9%となっている。
- ・問11では課題として「施設の老朽化に伴う快適性・安全性の低下」「ライフスタイルの多様化などに伴う施設の機能と利用者ニーズの乖離」等があげられており、それらを反映した結果となっている。
- ・その他として、施設の老朽化に伴う施設の改修や建替え、本の充実等の意見があった。

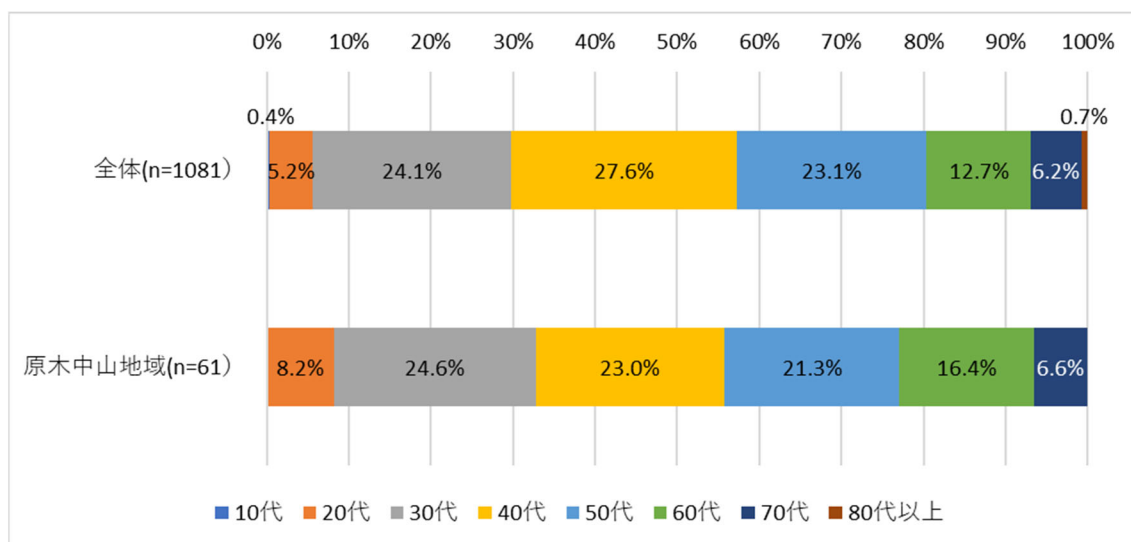


■住み続けたいまちにむけたアンケート

(1) ご自身とお住いの地域について

問1 あなたの年齢をお答え下さい。

- ・年代は、40代がもっとも多く27.6%、次いで30代の24.1%、50代23.1%となっている。30代～60代で約9割を占めており、現役世代の回答が多くなっている。
- ・原木中山地域を見ると、40代がもっとも多いものの全体と同様の傾向となっている。

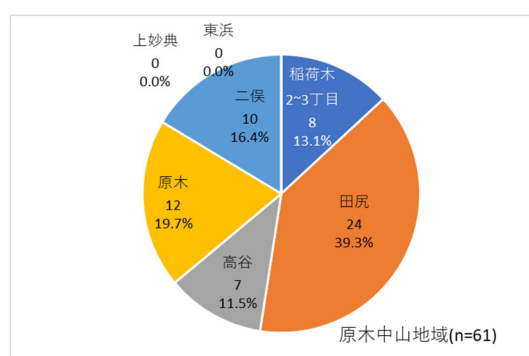
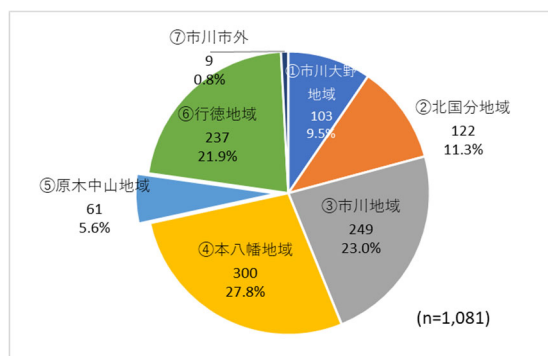


■住み続けたいまちにむけたアンケート

(1) ご自身とお住いの地域について

問2 あなたの現在の居住地（地区）をお答えください。

- ・「本八幡地域」がもっとも多く27.8%、次いで「市川地域」の23.0%、「行徳地域」21.9%となっている。「原木中山地域」は市内ではもっとも少ない5.6%となっている。
- ・原木中山地域内では、田尻、原木、二俣の方の回答が多くなっている。



■参考 町名別

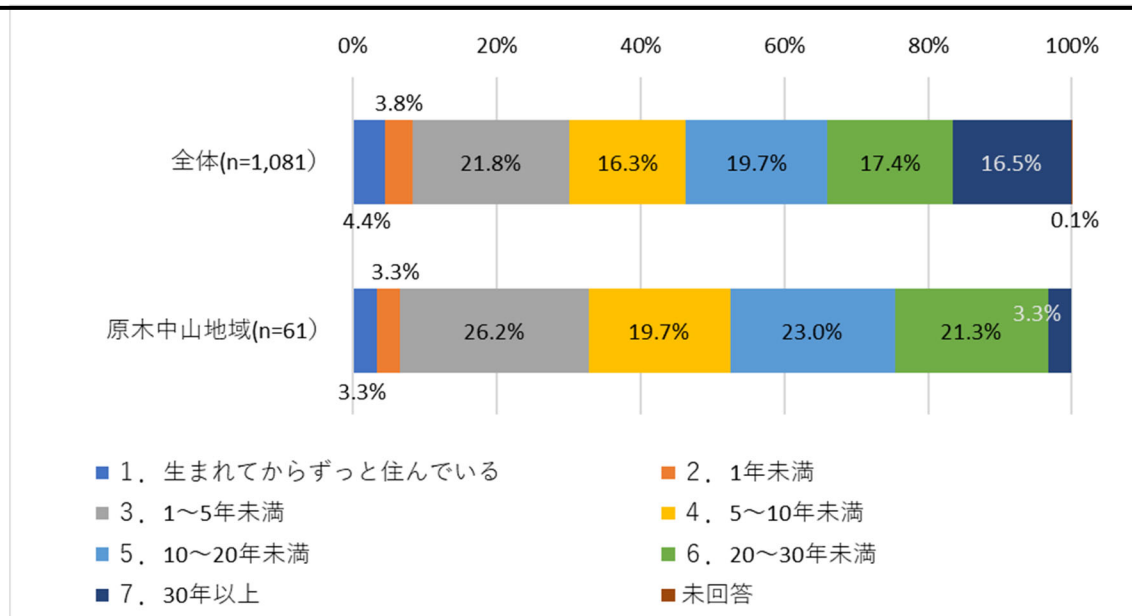
1. 市川大野地域（大町・大野町・南大野・奉免町・下貝塚・北方町4丁目・宮久保4～6丁目・東菅野5丁目）
2. 北国分地域（北国分・堀之内・稲越・曽谷・東国分・中国分・国分4～7丁目・国府台3～6丁目）
3. 市川地域（市川・市川南・真間・大洲・新田・須和田・菅野・国分1～3丁目・国府台1～2丁目・宮久保1～2丁目・平田2丁目・東菅野2丁目）
4. 本八幡地域（本北方・若宮・八幡・北方・中山・鬼越・南八幡・大和田・東大和田・鬼高・高石神・平田1、3～4丁目・宮久保3丁目・東菅野1、3～4丁目・稲荷木1丁目）
5. 原木中山地域（稲荷木2～3丁目・田尻・高谷・原木・二俣・上妙典・高谷新町・東浜）
6. 行徳地域
7. 市外

■住み続けたいまちにむけたアンケート

(1) ご自身とお住いの地域について

問3 あなたの現住所での居住年数をお答えください。

- ・「1～5年未満」がもっとも多く21.8%、次いで「10～20年未満」の19.7%、「20～30年未満」17.4%となっている。居住年数が短い10年未満の割合が約4割となっており、転入者の回答も多いものと考えられる。
- ・原木中山地域を見ると、10年未満の割合が約5割で全体を7.3ポイント上回っている。「30年以上」は僅か3.3%となっており、比較的居住年数の短い方が多く、転入者も多いものと考えられる。

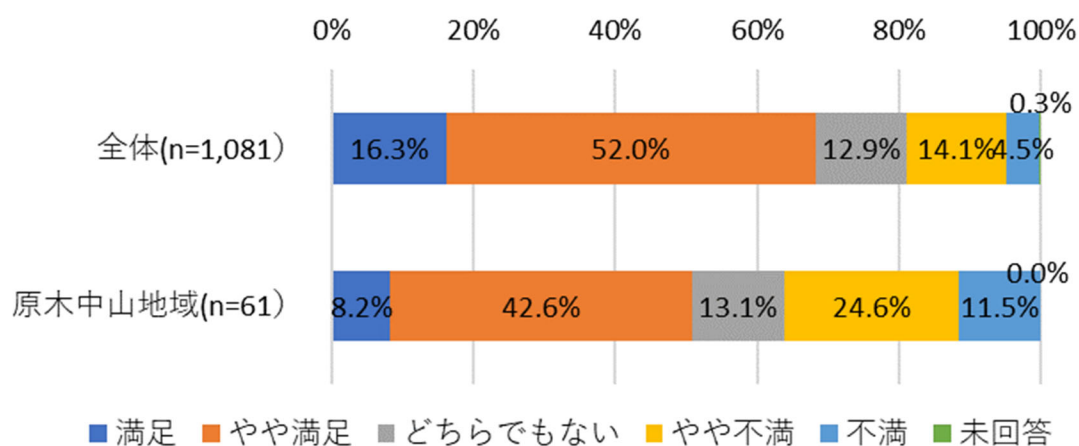


■住み続けたいまちにむけたアンケート

(1) ご自身とお住いの地域について

問4 あなたが現在お住いのまちの満足度についてお答えください。

- ・「やや満足」がもっとも多く 52.0%、次いで「満足」16.3%となっており、「満足」と「やや満足」を合わせ約7割となっており、比較的満足度は高くなっている。
- ・原木中山地域を見ると、「満足」と「やや満足」を合わせても約5割となっており、「やや不満、不満」の回答も多く、満足度は低くなっている。

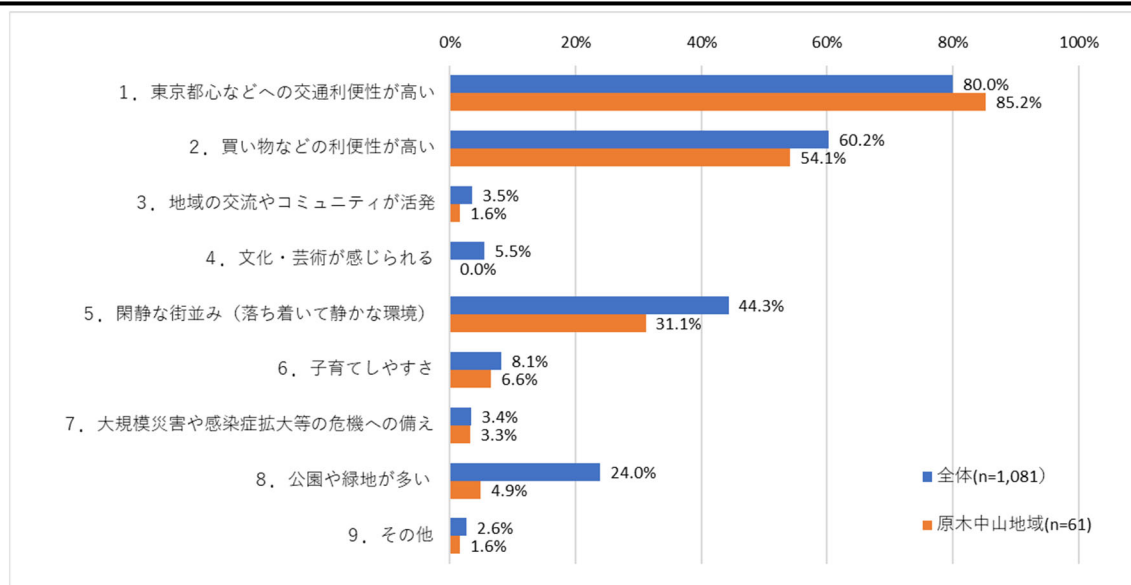


■住み続けたいまちにむけたアンケート

(1) ご自身とお住いの地域について

問5 あなたが現在お住いのまちの魅力についてお答えください。(複数回答3つまで)

・「東京都心などへの交通利便性が高い」がもっとも多く80.0%、次いで「買い物などの利便性が高い」60.2%となっている。交通環境や買い物環境の評価が高い一方で、地域コミュニティや災害等への備えについては評価が低く、安心・安全の確保とともに災害時にも力を発揮するコミュニティ、「地域の組織力」の強化も必要と考えられる。



《その他回答》

- ・江戸川河川敷のサイクリングロードが近い
- ・江戸川に近い、スーパー堤防が整備されている
- ・大規模な物流倉庫が多く、多くの人が地元でフルタイムで働ける環境がある
- ・都会と地方の雰囲気のバランスがちょうどいい
- ・子供の学校が近い、駅へのアクセスが近い など

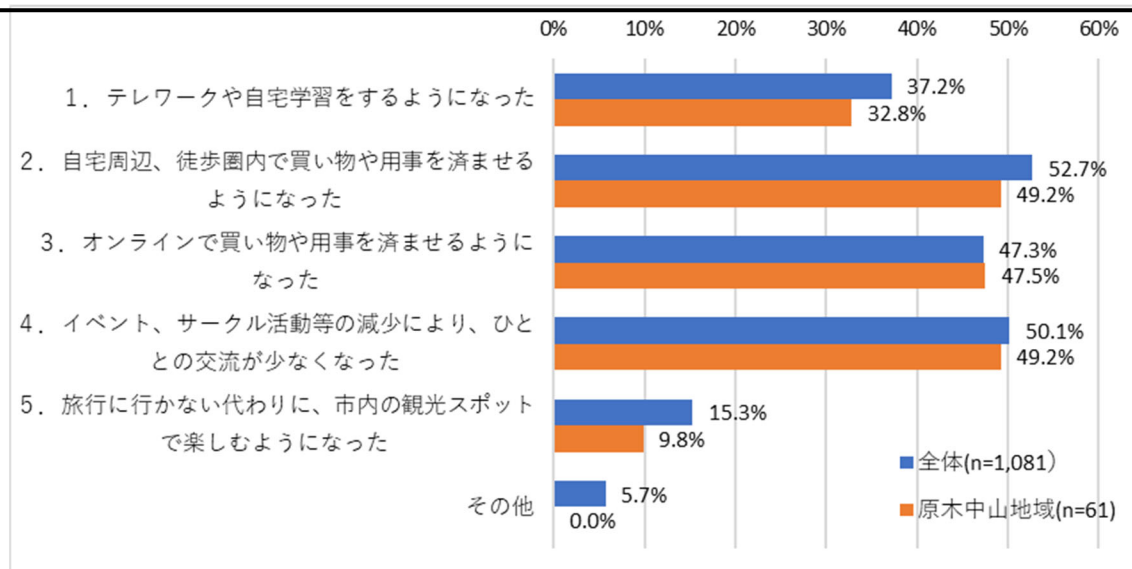
■住み続けたいまちにむけたアンケート

(1) ご自身とお住いの地域について

問6 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活の変化についてお答えください。

(複数回答)

- ・「自宅周辺、徒歩圏内で買い物や用事を済ませるようになった」がもっとも多く52.7%、次いで「イベント、サークル活動等の減少により、ひととの交流が少なくなった」の50.1%、「オンラインで買い物や用事を済ませるようになった」47.3%となっている。
- ・その他のうち約1/3は「変化はなかった」との回答であったが、未回答者(4件)を含め全体のわずか2.3%に過ぎず、多くの方に生活様式の変化が見られた。



《その他回答》

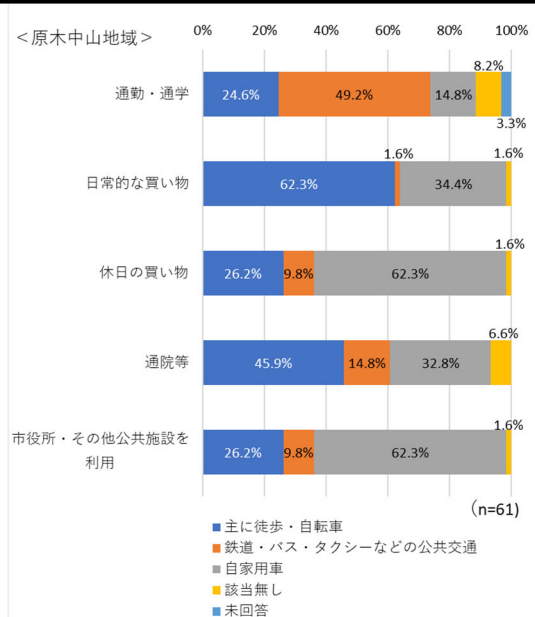
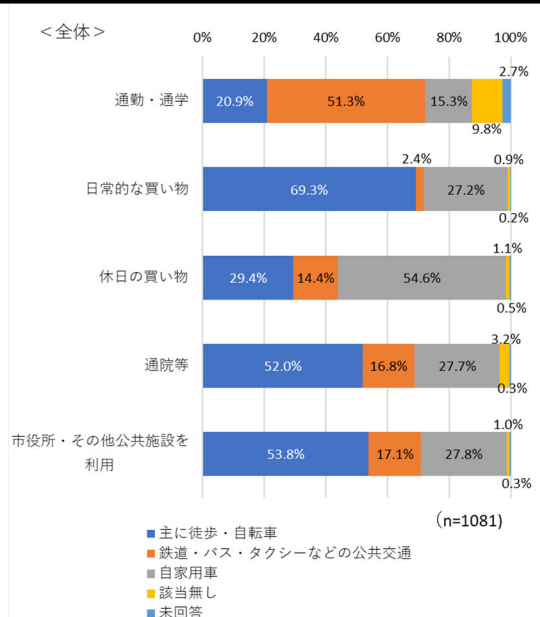
- ・旅行は近場になった。近所をウォーキングするようになった
- ・医療機関への受診を控えている
- ・外出・外食しなくなった
- ・自転車、自動車利用が増えた
- ・人とのつながりが希薄になった
- ・仕事が変わった
- ・市がだす感染状況を確実に得るために市のアカウントLINEやTwitterのフォローをはじめた など

■住み続けたいまちにむけたアンケート

(2) 交通手段について

問7 あなたが普段、よく利用する交通手段をお答えください。

- 通勤・通学**
 - ・「鉄道・バス・タクシーなどの公共交通」がもっとも多く 51.3%、次いで「主に徒歩・自転車」20.9%となっている。
 - ・徒歩・自転車利用が約2割となっており、地元で就業・就学している方が一定程度いるものと考えられる。
- 日常的な買い物**
 - ・「主に徒歩・自転車」がもっとも多く 69.3%、次いで「自家用車」27.2%となっている。
- 休日の買い物**
 - ・「自家用車」がもっとも多く 54.6%、次いで「主に徒歩・自転車」29.4%となっている。
 - ・日常の買い物と比較して自家用車の利用が2倍に増加しており、レジャーをかねて郊外店・大型店などに買い物に出掛けているものと考えられる。
- 通院等**
 - ・「主に徒歩・自転車」がもっとも多く 52.0%、次いで「自家用車」27.7%となっている。
 - ・徒歩・自転車利用が約5割となっており、万が一の時でもすぐに行ける医療機関が自宅から近くにあるものと考えられる。
- 市役所・その他公共機関利用**
 - ・「主に徒歩・自転車」がもっとも多く 53.8%、次いで「自家用車」27.8%となっている。
 - ・原木中山地域を見ると、他項目では全体と同様の傾向が見られた。一方、市役所・その他公共機関利用においては、「自家用車」がもっとも多く 62.3%、次いで「主に徒歩・自転車」26.2%となっており、全体に比べ「自家用車」利用が圧倒的に多くなっている。

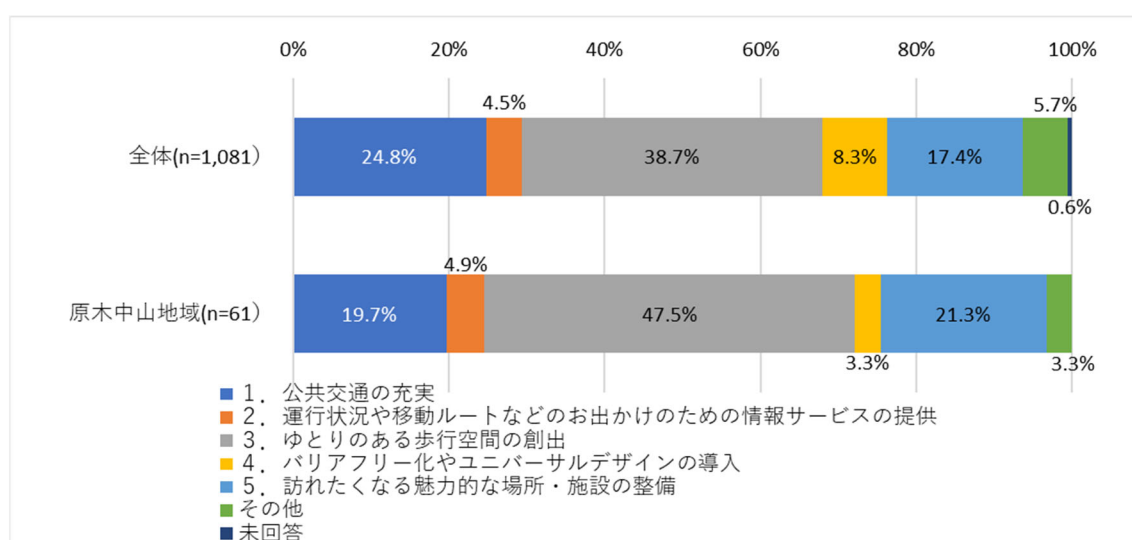


■住み続けたいまちにむけたアンケート

(2) 交通手段について

問8 今後、交通においてどのようなことが実現すればよいとお考えですか。

- ・「ゆとりのある歩行空間の創出」がもっとも多く38.7%、次いで「公共交通の充実」24.8%となっている。
- ・その他として、自転車道や歩道の確保を求める意見が多くあり、歩行者や自転車に着目した道路空間を創出していくことが求められていると考えられる。
- ・また、公共交通とともに、コミュニティバス（タウンバス）の充実を求める意見も多くなっている。



《その他回答》

- ・市施設に併設する駐車場の充実、市内道路渋滞の緩和(コルトンプラザ付近、国道357号)
- ・渋滞緩和
- ・自転車、歩道の確保、自動車道路の幅及びレーン増設
- ・バスの本数を増やしてほしい、わくわくバスルートが少なすぎる
- ・高齢者が免許返納をしやすい、ミニバス運行の拡充とエリア拡大
- ・駐輪場、駐車場の確保
- ・多車線化等、交通渋滞を緩和する道路整備
- ・自転車専用通行帯の確保
- ・住宅街と駅やスーパー、病院等をまわるタウンバスの充実 など

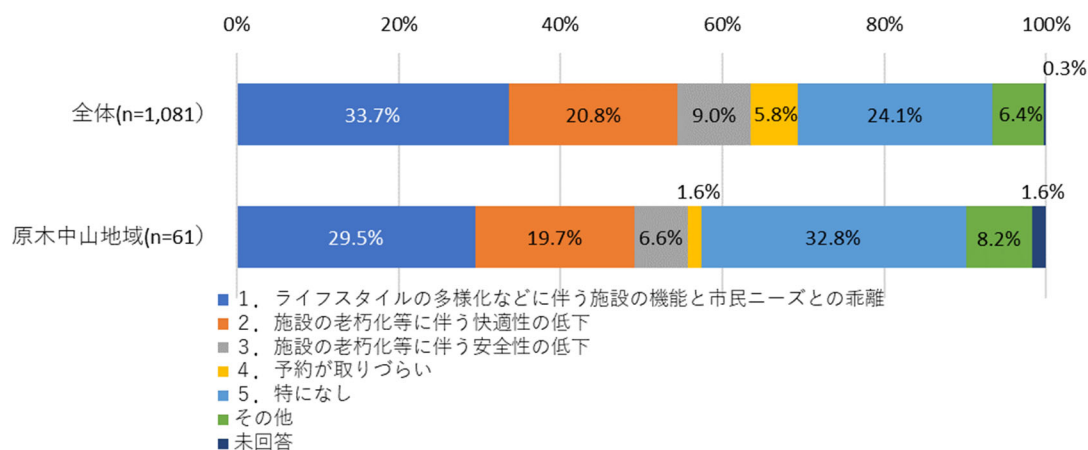
■住み続けたいまちにむけたアンケート

(3) これからの公共施設について

問9 市川市の公共施設について、課題と感ずることはあるでしょうか。

- ・課題は「特になし」と回答された方は24.1%（*公共施設アンケート32.1%）というものの、3/4の方は何かしらの課題を感じている。
- ・中でも、「ライフスタイルの多様化などに伴う施設の機能と利用者ニーズの乖離」はもっとも多く33.7%（*16.0%）、次いで「施設の老朽化等に伴う快適性の低下」の20.8%（*29.0%）となっている。
- ・その他として、遠い・アクセスしにくい、公園が少ない、どこに何があるのかどんな魅力があるのか知らないといった意見があがっている。
アクセスの改善とともに利用者ニーズに合わせた施設機能と、快適で利用したくなるような魅力ある施設が公共施設に求められているものと考えられる。
- ・公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート調査では、「施設の老朽化等に伴う安全性の低下」が16.7%となっていたが、本アンケートでは9.0%にとどまっている。
- ・原木中山地域を見ると、全体と同様の傾向ではあるものの、その他として公共施設が離れていて不便といった意見が見られた。

※（*）カッコ内値：1.2 の公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート調査結果



《その他回答》

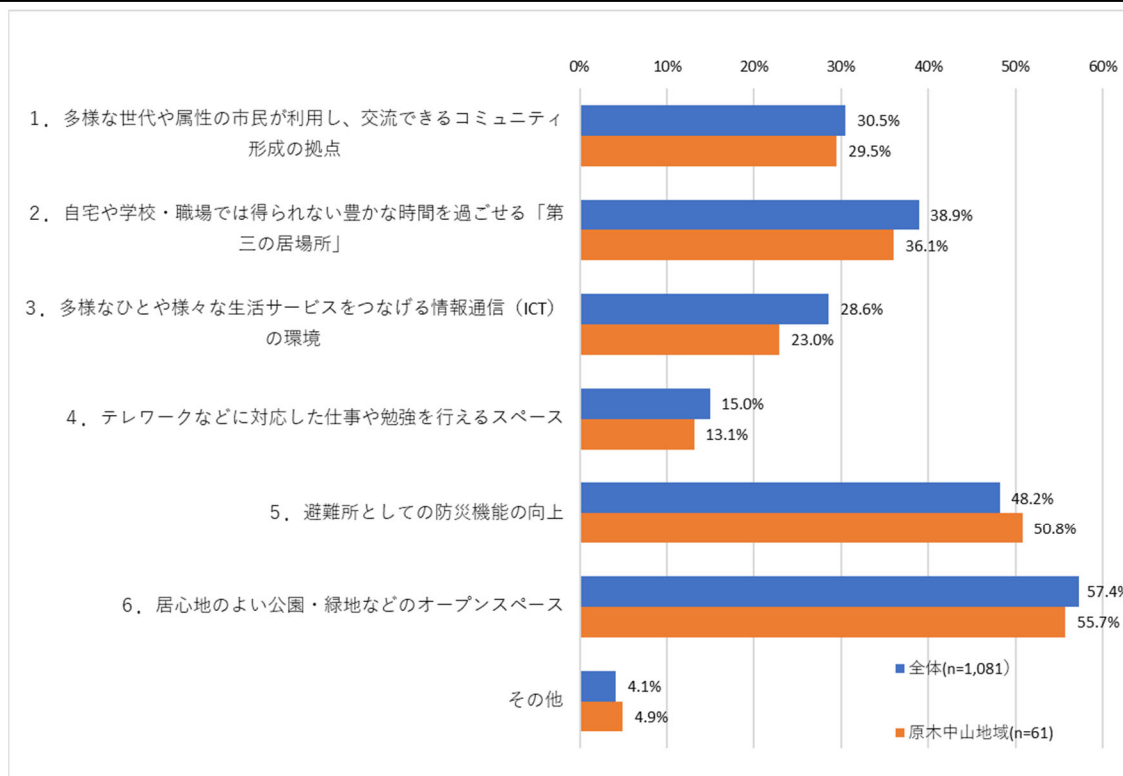
- ・どの地域からもアクセスしやすいようにしてほしい
- ・殆どが遠くて身近に感じない、遠くて利用しづらい
- ・利用したことがないので、利用したくなるような施設づくりをしてほしい
- ・PR不足、どこに何があるのか、どんな魅力があるのか知らない
- ・公園が少なすぎる、魅力的な公園がすくない など

■住み続けたいまちにむけたアンケート

(3) これからの公共施設について

問 10 市川市の公共施設全般について、今後、充実すべき機能は何でしょうか。（複数回答 3つまで）

- ・「居心地のよい公園・緑地などのオープンスペース」がもっとも多く57.4%、次いで「避難場所としての防災機能向上」の48.2%、「自宅や学校・職場では得られない豊かな時間を過ごせる第三の居場所」38.9%となっている。
- ・居心地のよいオープンスペースや、豊かな時間を過ごせる「第三の居場所」、防災機能などの充実など、居心地のよい快適な滞在空間であるとともに防災機能が公共施設に求められているものと考えられる。
- ・その他では、公園整備や図書館機能の充実を求める意見が多くあがっている。原木中山地域を見ても、全体と同様の傾向が見られる。



≪その他回答≫

- ・転勤族です、市川に来て公園の少なさに驚きました、誰も遊べない安全性の低いところや普通の道路まで公園（桜土手とか）と呼んでいるところに呆れます
- ・公園や緑地の確保、子供がボールで遊べる公園、空き地の確保
- ・スポーツ施設
- ・公共施設が狭くて古く、特定の目的、用事があるときにしか出向く気がしない、もっと民間と融合させて活性化したほうがいい

- ・ 学生さん（高校大学）と一緒に勉強したり、話し合ったりする場所、金銭的な自由が少ない子供や学生さんは、図書館や公共施設を無料で優先的に利用できるようになって欲しいです、身近な公共施設が未成年者の学校以外の居場所になって欲しいとも思います
- ・ 救急医療の充実 など

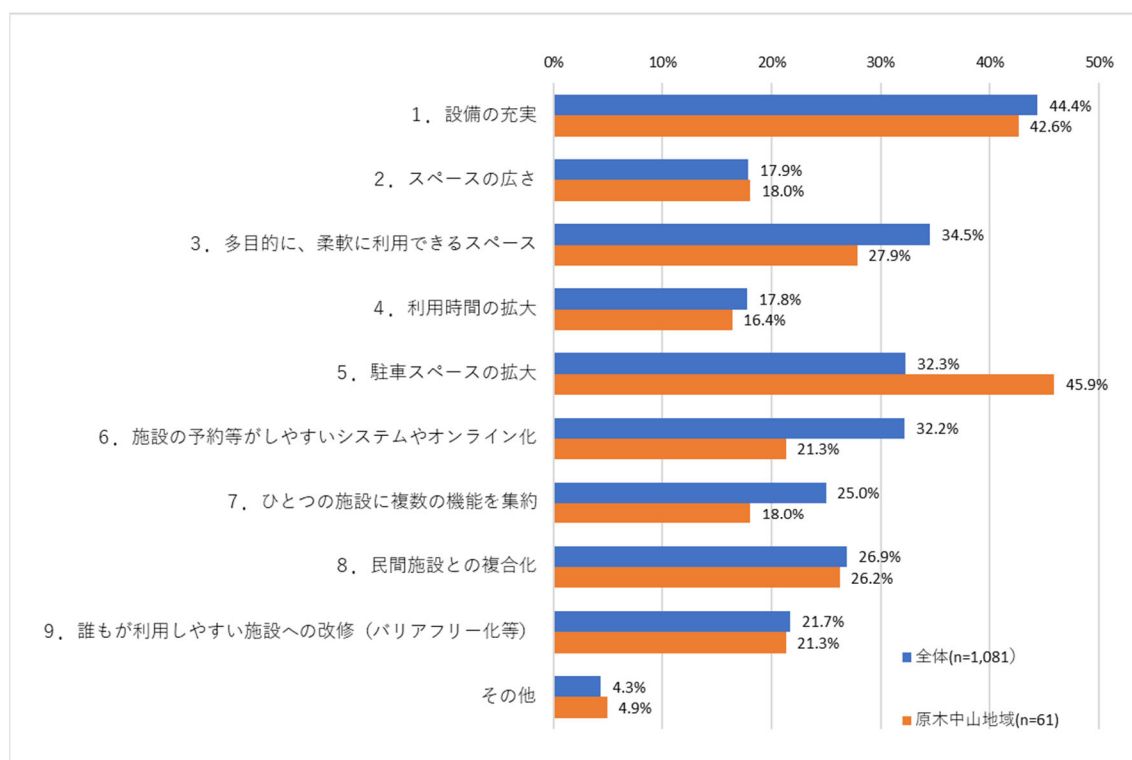
■住み続けたいまちにむけたアンケート

(3) これからの公共施設について

問11 市川市の公共施設をより利用しやすくする・利用したくなる工夫として、重要な点についてお答えください。(複数回答3つまで)

- ・「設備の充実」がもっとも多く44.4%(*66.7%)、次いで「多目的に柔軟に利用できるスペース」の34.5%(*39.5%)、「駐車スペースの拡大」32.3%(*14.8%)となっている。
- ・問9で課題として、「ライフスタイルの多様化などに伴う施設の機能と利用者ニーズの乖離」「施設の老朽化に伴う快適性の低下」があげられており、それらを反映した結果となっている。また、駐車スペースの拡大を求める意見も比較的多かった。
- ・その他として、施設の老朽化に伴う施設設備の修繕、市内地域格差の是正、アクセス・交通利便性の向上等の意見があった。
- ・原木中山地域を見ると、全体と同様の傾向が見られたものの、「駐車スペースの拡大」が45.9%と全体を13.6ポイント上回っている。問7の市役所・その他公共機関利用での利用交通手段で当該地域は「自家用車」の割合が62.3%と他地域に比べ多かったことが反映された結果となっている。

※(※) カッコ内値：1.2 の公共施設の利用とこれからのあり方に関するアンケート調査結果



《その他回答》

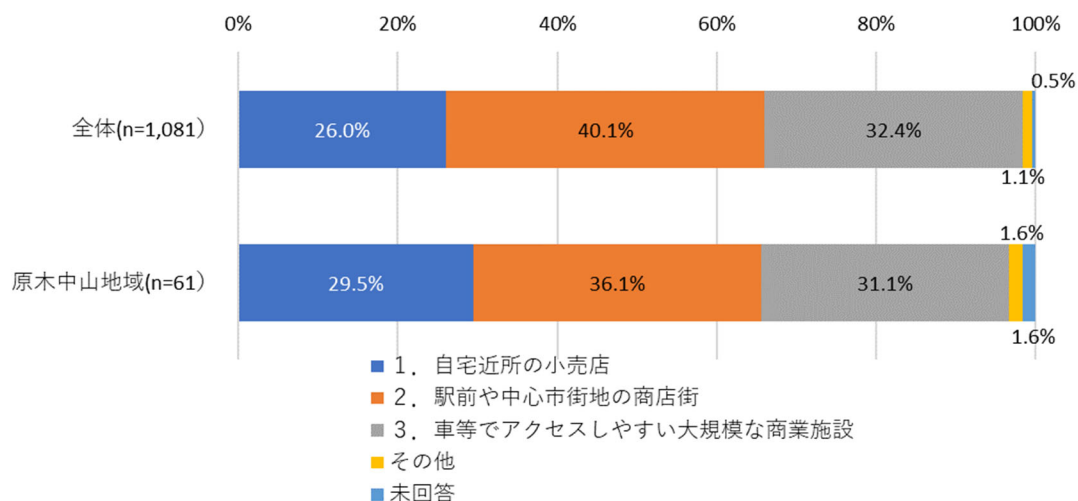
- ・行徳地域は市役所から遠いため、行徳・南行徳の支所で可能なサービスや土日の拡充
- ・アクセスの充実（特にバス）、交通利便性の向上
- ・積極的な情報開示
- ・古い施設や設備の修繕
- ・市内の地域格差の解消
- ・安心して利用できるように施設のクリーン化 など

■住み続けたいまちにむけたアンケート

(3) これからの公共施設について

問12 あなたのライフスタイルにあったまちの商業施設をお答えください。

・「駅前や中心市街地の商店街」がもっとも多く40.1%、次いで「車等でアクセスしやすい大規模な商業施設」の32.4%、「自宅近くの小売店」26.0%となっている。



《その他回答》

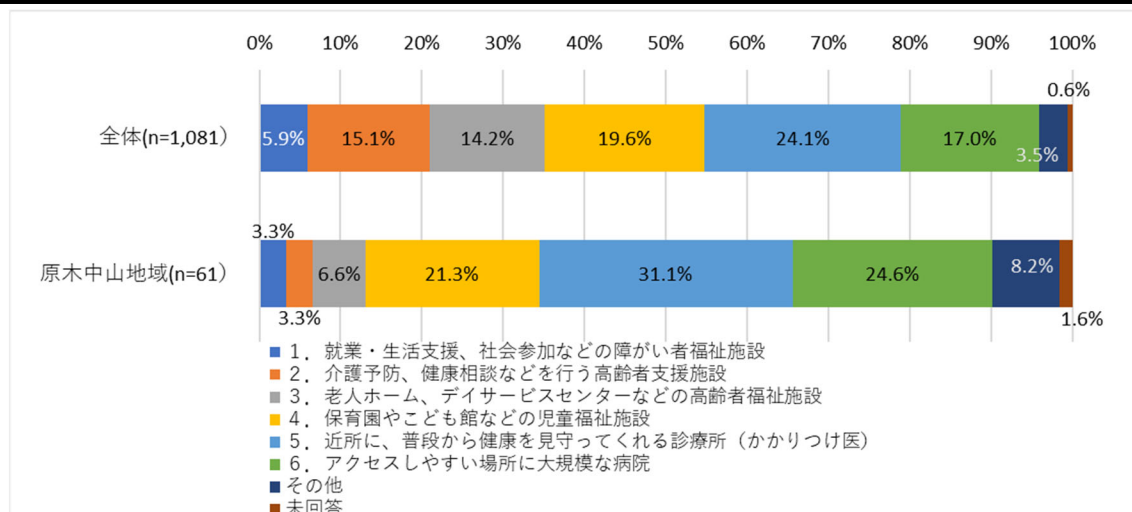
- ・ 自宅近所の中規模商業施設
- ・ 仕事のある日は駅近くの店舗、休日は自宅周辺の小売店 など

■住み続けたいまちにむけたアンケート

(3) これからの公共施設について

問13 これからのまちの福祉・医療について、今後どのような施設が必要だと思いますか。

- ・「近所に、普段から健康を見守ってくれる診療所(かかりつけ医)」がもっとも多く24.1%、次いで「保育園やこども館などの児童福祉施設」19.6%となっている。
- ・原木中山地域を見ると、高齢者福祉施設よりも子ども支援施設や医療機関が求められている。



≪その他回答≫

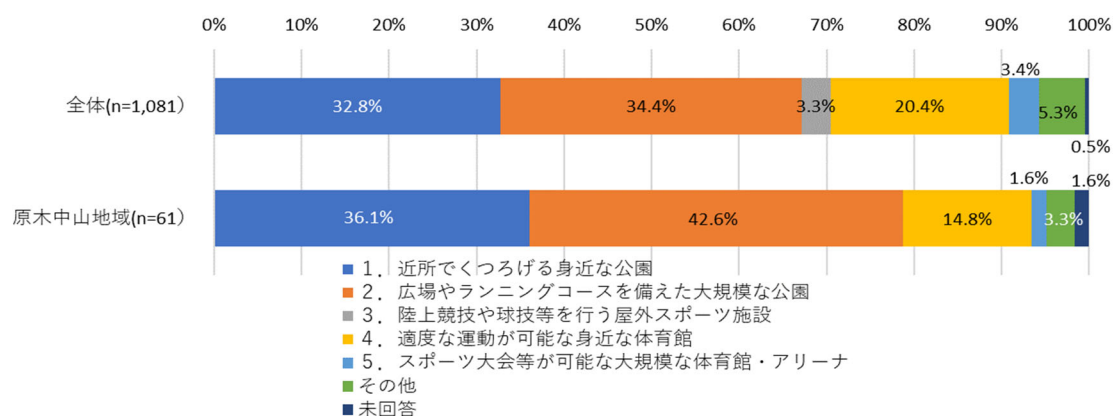
- ・待ち時間を極限まで減らした病院、夜遅くまで診察している病院、土日祝日も診察している病院
- ・予防医療、健診内容の充実、子供の医療費を近隣自治体のように無償化してほしい
- ・障害者でもなく、高齢者でもなく、児童でもなく、就職氷河期世代の福祉と医療について相談と支援をしてくれる施設
- ・社会的弱者への支援施設
- ・オンラインで各種福祉や医療の相談ができる仕組み
- ・病児保育施設 など

■住み続けたいまちにむけたアンケート

(3) これからの公共施設について

問14 今後、健康な生活を送るためにどのような施設が必要だと思いますか。

- ・「広場やランニングコースを備えた大規模な公園」がもっとも多く34.4%、次いで「近所でくつろげる身近な公園」32.8%となっている。
- ・陸上競技場や大規模なアリーナ等よりも、身近で日常的に利用可能な公園施設の充実が求められているものと考えられる。公園の充実を求める意見は他の設問でも多く見られている。
- ・その他では、施設拡充のほか、民間施設を有効活用した制度づくりや広く歩きやすい歩道の整備などを求める意見もあがっている。
- ・原木中山地域を見ると、その傾向はより顕著で「広場やランニングコースを備えた大規模な公園」、「近所でくつろげる身近な公園」で8割を占めている。



《その他回答》

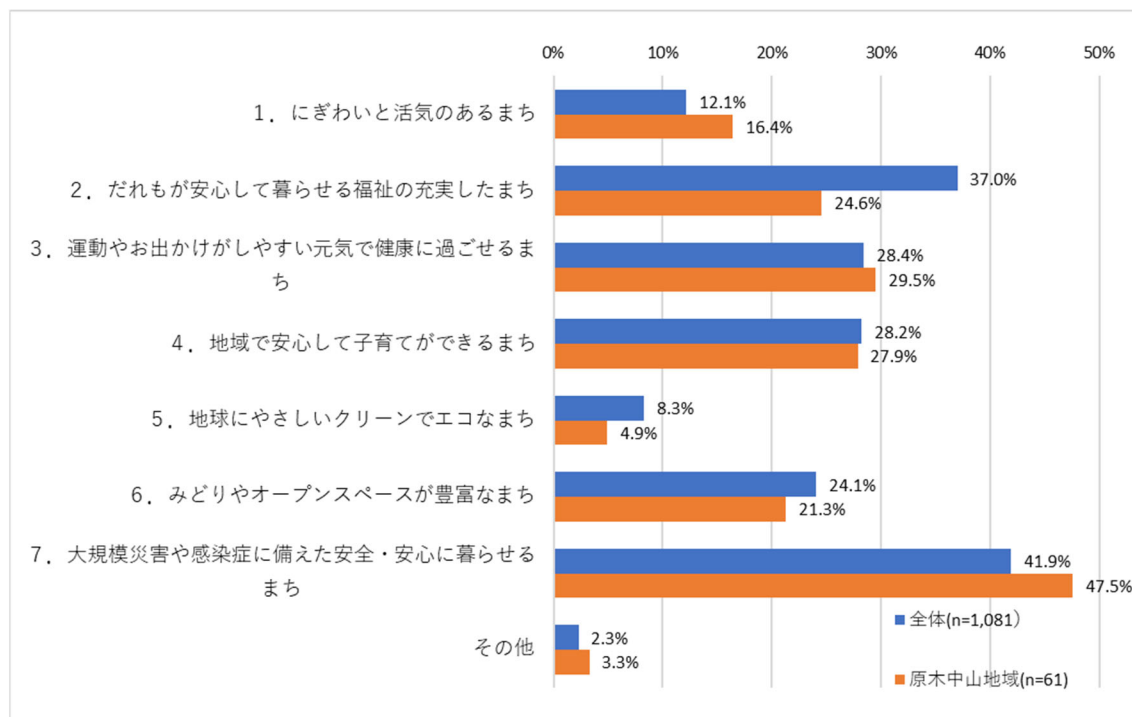
- ・整備された広く歩きやすい歩道
- ・健康遊具を設置した公園
- ・身近なジムやプールなどの施設の拡充
- ・規模の大小に関わらず、自然環境に接することが出来る十分な緑地（単位面積あたりの緑化率が市川市内は少なすぎる）を備えた公園や緑地帯
- ・民間施設を有効活用した制度づくり
- ・健康増進するような体育館と公園との融合
- ・川沿いに、ウォーキングやランニングが出来るコース整備や休憩ベンチ(スポット)や調節池付近の健康遊具設置等
- ・今ある公園に規制がかかりすぎるので、自由にのびのび使えるようにすれば、誰もが行きやすくなり知れずと外に出て運動になる
- ・市内全域の安全な歩行者専用道路 など

■住み続けたいまちにむけたアンケート

(3) これからの公共施設について

問15 あなたが現在お住まいのまちは、今後、どのようになれば良いと思いますか。(複数回答2つまで)

- ・「大規模災害や感染症に備えた安全・安心に暮らせるまち」がもっとも多く41.9%、次いで「だれもが安心して暮らせる福祉の充実したまち」37.0%となっている。
- ・近年激甚化する災害や新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、災害に強く誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりが求められているものと考えられる。
- ・原木中山地域を見ると、「大規模災害や感染症に備えた安全・安心に暮らせるまち」に次いで、「運動やお出かけがしやすい元気で健康に過ごせるまち」「地域で安心して子育てができるまち」が多く「だれもが安心して暮らせる福祉の充実したまち」を上回っている。子育てやお出かけ環境等の充実したまちづくりが求められているものと考えられる。



≪その他回答≫

- ・市川市独自の進んだ教育
- ・整った景観の住宅地
- ・車と歩行者お互いに安心して道路を通行できるまち
- ・法人税割合を増やす(誘致)か、若い世代の確保のために子育て充実化をしていただきたい
- ・計画的な道路、無電柱化 など

